

10年間の歩み

(平成25年度～令和4年度)

各ブロック研修会、専門部など

各ブロック研修会など

平成 25 年度

平成 25 年度ブロック活動報告

第 23 回北海道地区会総会並びに研修会報告

浦河赤十字病院
北海道ブロック理事 大沼 孝司



第 23 回北海道地区会総会並びに研修会が平成 25 年 9 月 28 日（土）～29 日（日）にわたり、日本赤十字社北海道支部会議室にて開催されました。道内 10 施設から 22 名の参加がありました。



研修会の内容についてはすでにお知らせしておりますが、今年は 28 日「会員研究発表」、富士フィルムメディカルから最新情報を、赤十字社診療放射線技師会会長の清水会長をお招きしまして“時代をつなぐもっとクロス“という内容で特別講演をしていただきました。



29日は気管支模型を作成し、情報交換会の次の日にもかかわらず、一生懸命に作成に取りかかっておりました。とても半日では作成出来ず持ち帰っていただきましたが、飛行機で来られた方は危険物と見なされそうなので、機内持ち込みはできないかと嘆きもありました。申し訳ありません。

来年も何か作成出来るものと思っておりますが……。



総会では事務局より1年間の事業・会計報告、今年度の計画発表などが承認されました。来年度の計画の中で、道内の会員を全国研修会へ北海道ブロックより派遣することが承認されました。

ただし、26年度より5年間の計画となります。未だ全国への研修会へ参加したことがない施設の会員より優先して派遣したいと思っております。また、北海道ブロックは今年役員改選の時期でしたが諸事情により1年間だけ延期させていただき、26年度は今の体制で行くことを承認されました。何はともあれ無事終了いたしました。

皆さんお疲れさまでした、また来年もよろしく。

日本赤十字社診療放射線技師会 北海道地区会
第23回総会並びに研修会 日程表

開催日時 : 平成25年9月28日(土) 12:00~18:00

平成25年9月29日(日) 9:00~12:00

開催場所 : 日本赤十字社 北海道支部 会議室

〒060-0001 札幌市中央区北1条西5丁目

(Tel)011 - 231 - 7126

第1日目 平成25年9月28日(土曜日)

12:30 ~ 13:00 受付・参加登録

13:00 ~ 14:40 会員研究発表・メーカーより最新の話題

座長・・・浦河赤十字病院 藤村 仁

会員研究発表

(1) 冠動脈CT検査における短時間型β遮断剤の使用経験

北見赤十字病院 ○樽見 悠也

相澤 幹也 高柴 裕司

(2) 乳房A領域病変描出のポジショニングの検討

北見赤十字病院 垂水 昌子

(3) 当院における人工関節全置換術後下肢静脈エコー検査の現況と有用性

伊達赤十字病院 穴澤 英樹

(4) 逐次近似法を応用した画像再構成法に対する基礎的検討

釧路赤十字病院 ○山田 佑介

小林 央 山岸 寿義

(5) 当院におけるAIの現状と試み

旭川赤十字病院 川口 裕二

メーカーより 最新の装置について

「富士最新FPDとトレンドITシステム製品のご紹介

～(マンモグラフィ、FPD一体型回診車、モバイル端末ビューワー)～」

富士フイルムメディカル株式会社

MS販売促進部 東日本センター 金田 和幸

富士フイルムメディカル株式会社 北海道地区営業本部 札幌支店営業部 小山 清太郎

14:50 ~ 16:15 特別講演

座長・・・浦河赤十字病院 大沼 孝司

「時代をつなぐ=もっとクロス=」

日本赤十字社 診療放射線技師会会長

深谷赤十字病院 清水 文孝 先生

16:30 ~ 17:30 第23回総会

19:00 懇親会

第2日目 平成25年9月29日(日曜日)

09:00 ~ 12:00 特別講演 実技

座長 浦河赤十字病院 三浦 康成

「気管支模型を作ろう！！」

講師 市立小樽病院 富田 伸生 先生

12:00 解散

平成 25 年度日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック研修会開催報告

福島赤十字病院 放射線科 今野 英麻呂

平成 25 年東北ブロック研修会は、平成 25 年 9 月 28 日（土）（13 時 30 分 ～ 17 時 30 分）に八戸赤十字院・日赤ホールにおいて 31 名のご参加をいただき、一般演題 6 題・教育講演・施設見学など内容の濃い研修会が盛会裏に開催されました。

【会場風景】



今回は 6 題の演題発表がありました。
それぞれの地域性と各病院の特色が反映した演題発表でした。



1、八戸赤十字病院 根城昂尚



2、八戸赤十字病院 古村茂樹



3、福島赤十字病院 佐藤勝行



4、 福島赤十字病院 阿部直人



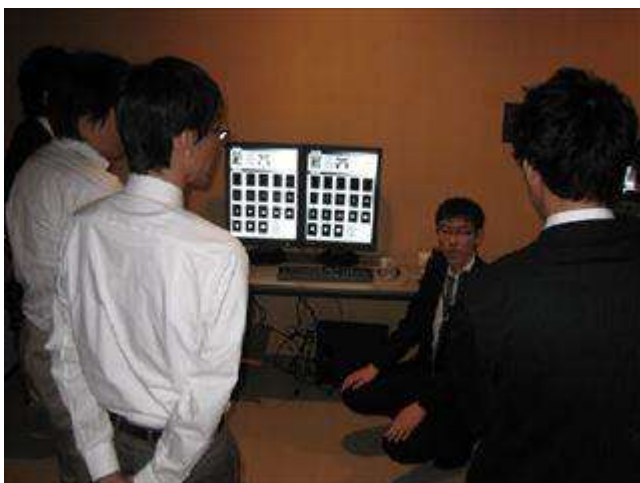
5、 盛岡赤十字病院 安達廣司郎



6、 石巻赤十字病院 長本圭祐

【教育講演】「モニターの基本と品質管理概要～ 関連する最近のトレンド (LED・ブルーライト)」

EIZO 株式会社 森脇浩史 先生



【座長】



福島赤十字病院 佐藤 勝行



八戸赤十字病院 松倉 裕次



八戸赤十字病院 大澤 哲平

【施設見学】



【集合写真・感想】

今回は、二回目の東北ブロック研修会の開催でした。東北ブロックは、秋田赤十字病院、八戸赤十字病院、盛岡赤十字病院、石巻赤十字病院、仙台赤十字病院、福島赤十字病院の6施設による構成となります。

東北地区の広域性とそれぞれの病院の事情から多くの会員の参加が難しい状況にありますが、内容の濃い研修会であり懇親会においても互いの施設の情報交換等、おおいに盛り上がりました。

今後は共通の課題をもうけるなど考えております。

最後に、八戸赤十字病放射線科の皆様には大変お世話になりました。



平成 25 年度日本赤十字社診療放射線技師会

東北ブロック研修会プログラム

日時：平成 25 年 9 月 28 日（土）

場所：八戸赤十字病院 別館 2F 日赤ホール

〒039-1104 青森県八戸市田面木中明戸 2

TEL：0178-27-3111 <http://www.hachinohe.jrc.or.jp/>

- 13:00 受付
- 13:30 開会
- 13:35 一般演題
- | | | |
|---|---------|--------|
| 座長 | 福島赤十字病院 | 佐藤 勝行 |
| 演題 1 「X 線 TV による鉛防護の有用性」 | 八戸赤十字病院 | 根城 昂尚 |
| 演題 2 「リニアック精度管理の均てん化、効率化について」 | 八戸赤十字病院 | 古村 茂樹 |
| 演題 3 「福島赤十字病院におけるホールボディカウンターの現状」 | 福島赤十字病院 | 佐藤 勝行 |
| 演題 4 「当院における VSRAD の現状と VSRADplus・
VSRADadvance の比較（解析時間・Z スコア）」 | 福島赤十字病院 | 阿部 直人 |
| 演題 5 「東日本大震災での MRI 装置の被害調査について（岩手県の場合）」 | 盛岡赤十字病院 | 安達 廣司郎 |
| 演題 6 「一般撮影マニュアルを作成したことによる撮影業務への影響について」 | 石巻赤十字病院 | 長本 圭祐 |
- 14:40 施設見学・休憩
- 15:25 教育講演
- | | | |
|--|---------|-----------------------|
| 座長 | 八戸赤十字病院 | 大澤 哲平 |
| 「モニターの基本と品質管理概要 ～関連する最近の技術トレンド（LED、ブルーライト）～」 | | EIZO 株式会社
森脇 浩史 先生 |
- 17:05 施設代表者会議
- 17:25 集合写真撮影、閉会

第26回日本赤十字社診療放射線技師会 東部ブロック研修会 開催報告

日時：平成25年11月23日（土）～24日（日）

当番病院：武蔵野赤十字病院

会場：中野サンプラザ

出席者数：東部ブロック20施設中16施設80名

《主な内容》

教育講演「救急CTの読影」

特別講演「モノクロモニタの特徴と管理」

教育講演「胸部X線写真～内科医はこう読んでいる」

教育講演&グループワーク「心を贈るコミュニケーション」

教育講演「最近の放射線治療について」

一般演題：10題



第 26 回 日本赤十字社診療放射線技師会 東部ブロック研修会 プログラム

日時 平成 25 年 11 月 23 日 (土)・24 日 (日)

大会長：荒井 一正
実行委員長：櫻井 和明
総合司会：藤田 寛之

11 月 23 日 (土)

12:00～ 受付開始

13:00～13:05 開会式 開会挨拶 大会長 荒井 一正
武蔵野赤十字病院 病院長挨拶 病院長 丸山 洋

13:05～13:25 日本赤十字社診療放射線技師会 会長挨拶
「時代をつなぐ＝もっとクロス＝」 会長 清水 文孝

13:25～14:05 教育講演「救急 CT の読影」 座長 櫻井 和明(武蔵野赤十字病院)
講師 姫野 佳郎(武蔵野赤十字病院 放射線科部長)

14:05～14:15 休憩

14:15～14:55 一般演題 I 座長 柏木 正人・遠藤 俊(武蔵野赤十字病院)

1.「ワイヤレス型 FPD を用いた移動型 X 線撮影装置の導入について」

三品 優美(さいたま赤十字病院)

2.「FPD における消去性能の検討」

新井 貴之(足利赤十字病院)

3.「体内遺残ガーゼ検出のための撮影条件及び画像処理パラメータの検討」

萩原 鈴絵 (前橋赤十字病院)

4.「当施設におけるトモシンセシスの使用経験」

水石 岳志(大森赤十字病院)

5.「マルチディテクタ CT における逐次近似画像再構成法」

千木崎 信介(水戸赤十字病院)

6.「体幹部 CT スキャン時の上肢の位置によるアーチファクトの検討」

大井 基弘(横浜市立みなと赤十字病院)

15:05～15:25 特別講演「モノクロモニタの特徴と管理」 座長 稲垣 哲人(武蔵野赤十字病院)
講師 嘉陽 浩和(EIZO 株式会社)

15:25～15:35 休憩

15:35～16:35 教育講演「胸部 X 線写真～内科医はこう読んでいる」 座長 荒井 一正(武蔵野赤十字病院)
講師 吉澤 正文(武蔵野赤十字病院 呼吸器科部長)

16:40~17:10 施設代表者会議 進行 荒井 一正(武蔵野赤十字病院)
議長 東部ブロック理事 尾形 智幸(さいたま赤十字病院)

18:00~ 情報交換会

11月24日(日)

8:45~ 開場

9:00~10:40 教育講演・グループワーク「心を贈るコミュニケーション」 司会 川原 明世(武蔵野赤十字病院)
講師 日下 隼人(武蔵野赤十字病院 小児科)

10:40~10:50 休憩

10:50~11:15 一般演題Ⅱ 座長 安廣 哲・川原 明世(武蔵野赤十字病院)

7.「FPDを用いたエネルギーサブトラクションの検討」

臼井 謙太(日本赤十字社医療センター)

8.「拡散強調撮像における磁場均一領域の検討」

佐藤 統幸(那須赤十字病院)

9.「PET/CTにおける呼吸運動の影響の軽減について」

飯田 友紀(横浜市立みなと赤十字病院)

10.「脳血流シンチグラフィの3D処理化 ~3D-CTAとのFusion画像処理の検討~」

中筋 登志男(武蔵野赤十字病院)

11:15~11:55 教育講演「最近の放射線治療について」

座長 鈴木 一考(武蔵野赤十字病院)

講師 星 章彦(武蔵野赤十字病院 放射線科部長)

11:55~11:58 次回当番病院挨拶

手塚 草一(那須赤十字病院)

11:58~ 閉会式

大会長 荒井 一正

H25 年度中部ブロック業務研修会 大盛会開催



平成 25 年度中部ブロック業務研修会が平成 25 年 9 月 7 日（土）、8 日（日）の二日間に涉って伊勢赤十字病院にて開催されました。

今年で第 4 回目の研修会となりましたが、これまでの日帰り開催を見直し、1 泊 2 日の研修会を行いました。

管内からは 72 名の参加を得て、盛り沢山のテーマを基に議論を行い、夜の宿泊では「中部の仲間を知ろう！」に会員相互のコミュニティを高めることが出来ました。

次年度開催は代表者会議で「名古屋第二赤十字病院」に決定致しました。

平成 25 年度 分科会活動報告

平成 25 年 11 月 23 日（土）日本赤十字社 会議室 202 号室にて日本赤十字社診療放射線技師会第 1 回分科会世話人会議を分科会世話人 15 名、常任理事 7 名の参加者にて開催した。分科会の活動状況を把握し、分科会活動の活性化について討議した。

【CT】世話人：河本勲則（京二）、加賀久善（大阪）、細川博明（松山）、
大竹 覚（成田）

1. 施設紹介

神戸赤十字病院（HP 掲載）

- 平成 25 年総会にて：テーマ「CT の被曝低減」として検討を行った。
メーカー、装置における AEC システムの応答性能を比較検討
- 会員からの CT 装置、検査に対する質問等の回答やアドバイスをを行った。
- CT の AEC システム動作について発表した。

【MRI】世話人：大澤哲平（八戸）、宇田暢樹（小川）、佐藤統幸（大田原）
浅見 肇（深谷）

設置状況および調査を合わせてアンケートを作成した。

- 全国の赤十字施設の MRI 設置状況
- 現在話題となっている、「MRI 対応ペースメーカー」に対する各施設の対応についての調査

【治療】世話人：小山登美夫（長野）、上田真吾（松山）、簾谷和男（足利）

- 放射線治療品質管理におけるアンケートを実施した、全国の赤十字病院の中から放射線治療施設のみ郵送でアンケートを送付したが、回収状況は極めて高く、90%を超える回答であった。アンケート結果は集計中であるが、最終的には今回のアンケート結果をふまえ、放射線治療品質管理体制の充実などを本社に要望したいと考えている。

【核医学】世話人：小池克己（さいたま）、坪井孝達（浜松）、星野洋満（前橋）
岸本義幸（神戸）

- 第 1 回核医学世話人会を神戸で開催し、活動計画を立案した。
各施設の装置状況を含め下記内容アンケートの作成中。
導入機器データベースの修正

機器ごとのワークフローを共有化
関係書類のフォーマットの共有化

【医療情報】世話人：加藤秀之（松江）、西村英明（福井）、西小野昭人（熊本）

1. 平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会にて医療情報分科会シンポジウムを行った。
2. 平成 24 年度日本赤十字放射線技師学術総会での医療情報分科会シンポジウムの発表内容およびモニタ管理に関するアンケートの結果をホームページに掲載した。
3. 盛岡赤十字病院から医用画像情報領域のアンケートへの協力依頼があり、Web アンケートの実施を中心に対応した。
4. システムマップの更新について検討を行った。

【乳房画像】世話人：尾形智幸（さいたま）、西関 剛（長浜）、梶迫絵美（京二）
出井愛子（大森）

1. 機器の使用ユーザーコメントを HP に掲載する準備をした。
(技師会ホームページ刷新に備えるため)

平成 26 年度 分科会活動計画案

1. 分科会活動の活性化を図るため、分科会組織の充実と強化を目的とする。
このことは、各施設より其々の分科会員を選出して頂くことにより、分科会から発信するあらゆる情報を各施設は共有できるものとする。
2. 技師会 HP を有効活用する。
3. 第 2 回分科会世話人会議を開催する。

【CT】世話人：河本勲則（京二）、加賀久善（大阪）、細川博明（松山）、
大竹 覚（成田）

1. 継続活動
各施設の CT 室紹介（装置、検査数、運用等掲載用ひな形で行う）
2. CT 装置や検査内容に関する新しい話題や TOPIX をメーカーと共同で HP 掲載内容検討し資料を作成する（各メーカーの逐次近似画像の特徴についてファントム実験を含め資料を集める）。
3. 新機種（被曝低減、逐次近似再構成システム掲載）の稼働状況について調査（アンケート方式も視野に入れて）を行う。

【MRI】世話人：大澤哲平（八戸）、宇田暢樹（小川）、佐藤統幸（大田原）
揚出泰弘（秋田）

設置状況および調査を合わせてアンケートの実施を行う。

1. 全国の赤十字施設のMRI設置状況
2. 現在話題となっている、「MRI対応ペースメーカー」に対する各施設の対応についての調査

【治療】世話人：小山登美夫（長野）、上田真吾（松山）、簾谷和男（足利）

1. 平成 26 年度全国日本赤十字社診療放射線技師会総会学術大会における分科会報告
2. 品質管理アンケート結果を日本赤十字社医学会総会にて報告
3. ホームページへのトピックスや資料の掲載
治療分科会の将来構想は会員の顔が見える会にすることである、年に 1 回程度治療分科会独自の会合・研修会の開催を目指す。

【核医学】世話人：小池克己（さいたま）、坪井孝達（浜松）、星野洋満（前橋）
岸本義幸（神戸）

1. 第 2 回の世話人会の開催。
2. 各施設の装置状況を含めアンケート実施および報告。
導入機器データベースの修正
機器ごとのワークフローを共有化
関係書類のフォーマットの共有化

【医療情報】世話人：加藤秀之（松江）、西村英明（福井）、西小野昭人（熊本）

1. リニューアルされる Web サイトを有効利用して医療情報分野の情報交換を活発にする。
2. 医用画像情報の交換に関する運用について検討する。
外部保存を含めた PACS のリプレースについて検討する。
3. システムマップについて他の分科会とも協力して充実をはかる。

【乳房画像】世話人：尾形智幸（さいたま）、西関 剛（長浜）、梶迫絵美（京二）
出井愛子（大森）

1. 本技師会 HP を十分に活用し、機器の使用ユーザーコメントを HP に掲載する。
2. 世話人会議を開催する。

第 49 回日本赤十字社医学総会報告

第49回日本赤十字社医学総会が10月17・18日に和歌山で開催されました。
参加された会員の声をお届けします。

医学総会に参加して（第49回医学総会報告）

日本赤十字社和歌山医療センター 小林 弘幸



開会式

10月17日（木）、18日（金）和歌山市において第49回日本赤十字社医学総会が開催されました。
私は、2日目の一般口演での発表のため参加させていただきました。



山中教授ビデオメッセージ

初日の特別講演では、京都大学 iPS 細胞研究所から川口義弥先生をお招きし「多能性幹細胞を用いた糖尿病治療開発の展望」を講演していただきました。講演では、ノーベル医学賞受賞で一躍時の人となった、山中伸弥先生からのビデオメッセージもあり、注目度の高い総会であったと感じられました。



放射線技術部門

私が参加させていただいた一般口演放射線技術部門では、当センターから撮影部門、CT 部門、治療部門から各 1 題ずつ、計 3 題の発表がありました。他施設の放射線技術部門の発表も聴きかせていただきました。どの発表も、これからの日常業務に活かせる、興味深いものばかりでした。



要望演題発表風景

発表終了後に他施設の演者の先生と、日常業務での気になる事など情報交換させていただき、とても充実した機会となりました。

このような機会を与えていただいた事に感謝し、今後の日常業務に活かしていきたいと思えます。



ポスター会場

各ブロック研修会など

平成 26 年度

第24回日本赤十字社診療放射線技師会北海道地区会総会並びに研修会報告

浦河赤十字病院

北海道ブロック理事 大沼 孝司

第24回北海道地区会総会並びに研修会が平成26年10月4日(土)～5日(日)の2日間日本赤十字社北海道支部会議室にて開催、道内10施設から24名の参加がありました。研修会の内容については4日「会員研究発表8題」、全国日本赤十字社放射線技師会研修会へ参加した置戸よりその報告を、総会の後に情報交換会を行い、研修会会場で聞けなかった事項について膝を交えて楽しい一時を過ごした。2日目には苫小牧市立病院放射線科医師の久保公三先生をお招きしまして「CT画像診断のための背景知識と基本条件について」と題した講演をしていただきました。参加者にはこの中からひとつでも印象に残る事柄を覚えていってほしいと思って計画しております。また投稿原稿をCDに焼き付けて各施設に送付しており再度確認の意味で見ただけであればと思っております。総会にて役員改選が行われ次年度は釧路の工藤会員が新たな会長として会を運営していきます。北海道ブロック会員の更なる協力をお願いいたしました。また私を支えていただいた事務局の藤村会員や他施設の職場長や会員の方々、また全国のブロック理事として参加した際にお世話になった清水会長を初め副会長常務理事他ブロックの理事など多くの方々に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。人間を救うのは人間だということが改めて認識をした3年半の任期でした。

日本赤十字社診療放射線技師会 北海道地区会

第24回総会並びに研修会 日程表

開催日時 : 平成26年10月4日(土) 13:00から
平成26年10月5日(日) 12:00まで
開催場所 : 日本赤十字社 北海道支部会議室
〒060-0001 札幌市中央区北1条西5丁目
(Tel)011-231-7126

第1日目 平成26年10月4日(土曜日)

13:00 ~ 13:30 受付・参加登録
13:30 ~ 15:30 会員研究発表

座長・・・小清水赤十字病院 岩田 雄一
釧路赤十字病院 熊谷 敬広

セッション1 13:30~14:30

(1) オホーツクPETセンターの紹介

北見赤十字病院 相澤 幹也

(2) 補助具を使用した手根管撮影

北見赤十字病院 ○植田 穂乃香 加藤 益光

(3) X線TV装置 散乱線防護クロスの使用効果

伊達赤十字病院 ○大島 貴彰 山内 修司
千葉 真貴子 吉永 圭祐

(4) 放射線科読影医による画像カンファレンスのデータベース化の試み

浦河赤十字病院 ○藤村 仁 大沼 孝司

セッション2 14:30~15:30

(5) 乳がん検診マンモグラフィの撮影技師と読影医のカテゴリー判定の比較
検討

旭川赤十字病院 豊田 宏典

(6) 医療被ばく低減施設認定に向けて

旭川赤十字病院 野村 和弘

(7) 英文によるMRI問診票作成の試みについて

旭川赤十字病院 藤城 伸一

(8) 乳腺造影超音波検査での良悪性鑑別と有用性

釧路赤十字病院 山岸 寿義

15:40 ~ 16:30

座長・・・浦河赤十字病院 藤村 仁

「日本赤十字社診療放射線技師会学術総会 参加報告」

置戸赤十字病院 安喰 邦心

16:40 ~ 17:40

日本赤十字社診療放射線技師会北海道地区会 第24回総会

19:00 懇親会

第2日目 平成26年10月5日(日曜日)

9:30 ~ 11:30 特別講演

座長・・・浦河赤十字病院 三浦 康成

「CT画像診断のための背景知識と基本条件について」

苫小牧市立病院 久保 公三 先生

11:30 解散



平成 26 年度 第 3 回日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック研修会報告

福島赤十字病院 放射線科 今野 英麻呂

平成 26 年度東北ブロック研修会は、平成 26 年 9 月 27 日（土）に福島市「コラッセふくしま」において 37 名のご参加をいただき、会長講演・教育講演・一般演題 5 題・共同発表 6 題で予定時間を超えてしまう内容の濃い研修会が開催され、情報交換会においても会長を交えた互いの施設の情報交換など、おおいに盛り上がり盛会裏に終わることが出来ました。

時間：13 時 30 分 ～ 17 時 00 分



【会長講演】



【会場風景】



【会場風景】



【集合写真】

第3回東北ブロック研修会プログラム

日時：平成26年9月27日（土）

場所：コラッセ福島 5F 小研修室

〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号 <http://www.corasse.com/>

13:00～受付

13:25～開会挨拶 東北ブロック理事 福島赤十字病院 今野 英麻呂

13:30～日本赤十字社診療放射線技師会 会長講演 座長 仙台赤十字病院 安彦 茂 理事
会長 深谷赤十字病院 放射線科 技師長 清水 文孝 様

14:00～教育講演 座長 八戸赤十字病院 大澤 哲平

○最近のCTの話題 「～ノイズとアーチファクトの低減技術～」

東芝メディカルシステムズ株式会社 東北支社営業推進部 CT担当 鎌田 歩 先生

○「FPD搭載装置の最新動向」

日立メディコ XR営業本部 XRアプリ課 嶋田 智昌 先生

15:10～共同テーマ発表 「各施設における当直勤務体制」座長 福島赤十字病院 佐藤 久光

八戸赤十字病院 東山 正樹

盛岡赤十字病院 藤村 貴順

福島赤十字病院 五十公野 純子

秋田赤十字病院 大隅 康之

石巻赤十字病院 及川 順一

仙台赤十字病院 安彦 茂

15:50～一般演題発表 座長 福島赤十字病院 相澤 浩樹

演題1「CTによる減弱補正を用いたSPECTに様々な体内の金属が与える影響と

その抑制方法についての提案」 仙台赤十字病院 医療技術部 放射線科 鈴木 陽

演題2「パワーポートを利用した造影CT検査について」石巻赤十字病院放射線技術課 安住 渉

演題3「Koseki 治療RIS使用経験について」盛岡赤十字病院医療技術部放射線画像診断技術課

佐藤 光博

演題4「MAMMOMAT Inspiration 使用経験」石巻赤十字病院放射線技術課 和田 かおり

演題5「放射線機器の使用電力と節電について」 福島赤十字病院 放射線技術課 三次 鏡太

16:30～代表者会議

17:00～集合写真撮影・閉会

日本赤十字社診療放射線技師会 平成 26 年度東部ブロック活動報告

1. 第 1 回施設代表者会議開催

以下、議事録

第 1 回施設代表者会議議事録

日時：平成 26 年度 4 月 25 日（金） 午後 13：00～17：00

場所：さいたま赤十字病院 本館 5 階第 2 会議室

参加者名簿

	施設	氏名	役職
1	水戸赤十字病院	大貫信也	課長
2	那須赤十字病院	手塚章一	技師長
3	前橋赤十字病院	久保田利夫	技師長
4	原町赤十字病院	町田 充	技師長
5	さいたま赤十字病院	尾形智幸	技師長
6	小川赤十字病院	小林教浩	課長
7	深谷赤十字病院	清水文孝	技師長
	深谷赤十字病院	中山 進	課長
8	成田赤十字病院	鈴木立彦	課長
9	日本赤十字医療センター	小山 均	技師長
10	武蔵野赤十字病院	荒井一正	課長
11	大森赤十字病院	樋口新一	課長
12	横浜市立みなと赤十字病院	宮沢 明	技術課長
13	秦野赤十字病院	湯山浩司	課長
14	長岡赤十字病院	林 智	技師長

議長：尾形（さいたま） 書記：中山（深谷）

議題

1. 正式名称

「日本赤十字社診療放射線技師会東部ブロック施設代表者会議」

2. 運営について

規約作成 他のブロックを参考にして尾形さんが取りまとめる。メール会議活用
 開催時期 4月中旬と東部ブロック研修会の2回
 場所 さいたま赤十字病院（4月開催）
 連絡方法 メールで出欠確認
 依頼状 院長への依頼状は2ヶ月前までに。依頼状は院長と本人宛の2通
 参加方法 出張扱い（日本赤十字医療センター除く）
 参加者 各施設より1名とし職名は問わない

その他 議長・書記の順番は持ち回りとする。メール連絡
東部ブロック研修会では当番病院が担当する

3. 理事・委員の順番

理事 1期2年とし留任を妨げない

ブロック理事 尾形（さいたま）

委員 当番病院と次回当番病院の2名（案）

- ・委員の仕事内容がはっきりしない
- ・何をしてよいか解らない

4. 画像保管状況

クラウドについて

- ・採用 深谷、前橋
- ・今後検討 多数の施設

シンスライスの取り扱い

- ・全て PACS（少ない）
- ・期間を決めて、または残さない（多数）

手術支援システムについて

- ・採用（少ない）
- ・検討（基準の確認）

他院の画像取扱い

- ・全て取り込む（殆どの施設）

誰が行っているか

- ・事務（多数の施設）・技師・事務と技師

CD の書込みは誰

- ・事務（多数の施設）・技師・事務と技師・医師

5. 各施設から

施設移転時について（さいたま）

患者の移動

- ・自衛隊、警察に依頼
- ・入院患者を減らして

機器の移動

- ・免震構造は増築できない
- ・7年以内の装置は全て移転
- ・本社を通すと時間がかかる

院内歩行ルールについて（さいたま）

- ・武蔵野赤十字は左側ルールで職員は端を歩く

CT 検査の患者固定に付いて同意書は必要か

- ・同意書は取っていない（全ての施設）
- ・落下対策の固定として扱う

治療業務での資格者の取り扱いについて（医療センター）

- ・特別な扱いはしていない（全ての施設）

- ・学会費、出張の補助
- ・非常勤物理士の採用

漏洩線量について (長岡)

- ・各県で事情(理解度)が異なるのでメールで情報収集

産休の補助について (那須)

- ・産休期間中はアルバイト募集(実際は来ない)

大型停電の対応について (武蔵野)

- ・一通りのモダリティーに対応している
- ・100Vは対応
- ・赤コンセントは事前に確認が必要(通電しない)
- ・停電テスト後に不具合がでる

サポートエンドの装置について (横浜市立みなど)

- ・武蔵野1台、深谷2台を使用中
- ・幹部にサポートエンド装置の報告が必要
- ・10年間は使用する

マンモ認定施設に関して

- ・施設申請を出していない
- ・デジタルでのA認定は難しい

以上各施設のご意見を簡単に羅列いたしました。

文責 中山(深谷)

2. 日本赤十字社診療放射線技師会 第27回東部ブロック研修会報告

平成26年11月8日(土) - 9日(日)

当番病院 那須赤十字病院

参加者 85名

11月8日(土)

- ① 大会長挨拶 那須赤十字病院 手塚章一 技師長
- ② 那須赤十字病院 事務部長挨拶 松山昭夫 事務部長
- ③ 日本赤十字社診療放射線技師会会長挨拶 清水文孝 会長
- ④ 教育講演 「災害拠点病院新築における工夫と反省点」
那須赤十字病院 副院長・放射線科部長 水沼仁孝 先生
座長 那須赤十字病院 吉成 亀蔵 課長

⑤ 一般演題 6 演題

座長 那須赤十字病院 中野繁明 氏
増淵祐介 氏

⑥ 特別講演 「医療被曝リスクと低減対策」

国際医療福祉大学クリニック院長 鈴木 元 先生
座長 那須赤十字病院 檜山 操 課長

⑦ 施設代表者会議

議事録（資料1）参照

⑧ 情報交換会

参加者、施設間の親睦が深まり非常に有意義であった

11月9日（日）

⑨ 教育講演 「医療者のメンタルヘルス」

那須赤十字病院 臨床心理士 白石奈緒美 先生

⑩ 一般演題 6 演題

座長 那須赤十字病院 佐藤統幸 係長
井戸沼佳明 係長

⑪ 日本赤十字社診療放射線技師会講演

「原子力災害時の救護活動における診療放射線技師の役割」

唐津赤十字病院 坂井征一郎 先生

座長 前橋赤十字病院 久保田利夫 技師長

⑫ 閉会式

以上、那須赤十字病院スタッフの熱意がうかがえる有意義な2日間の研修会であった。

資料1

日本赤十字社診療放射線技師会 東部ブロック施設代表者会議 議事録

日時：平成26年11月8日(土)

会場：りんどう湖ロイヤルホテル

議長：尾形 智幸 東部ブロック理事(さいたま)

進行：手塚 章一(那須)

世話人：清水 文孝 会長(深谷)

書記：井戸沼 佳明(那須)

出席者(敬称略)

新藤 裕之(水戸)、山岸 弘(芳賀)、茂木 常男(足利)、久保田 利夫(前橋)、
新木 由香(原町)、尾形 智幸(さいたま)、小林 教浩(小川)、中山 進(深谷)、
仁平 康弘(成田)、小山 均(医療センター)、荒井 一正(武蔵野)、樋口 新一(大森)、
宮澤 明(横浜)、田部井 誠(秦野)、水石 紀茂(相模原)、地崎 純一(長岡)、

山下 明(那須)、吉成 亀蔵 (那須)

欠席病院：葛飾産院・山梨・古河

【報告】

東部ブロック研修会報告

[経費]

- ・別紙の通り
- ・助成金：日本赤十字社診療放射線技師会より15万円

東部ブロック院長連盟より5万円

・全国理事会で技師会への返納を無しにしてほしいと言われたと報告があった。いくつか意見が出たが、余った分は担当施設の雑費というかたちで会計上残金を0とし返納はしないことに決まった

【審議】

第1号議案

平成29年度当番病院の選出について

- ・平成27年度 横浜市立みなと赤十字病院
- ・平成28年度 大森赤十字病院
- ・平成29年度 長岡赤十字病院
- ・平成30年度 さいたま赤十字病院

第2号議案

指定演題について

・今回はMRのシンポジウムを考えていたが、日本赤十字社診療放射線技師会より「原子力災害時の救護活動における診療放射線技師の役割」の講義を行いたいとの申し入れがあり、時間の関係上シンポジウムは中止となった。

・清水会長よりブロックの研修会において、各専門部会を使ってほしいという提案があった。その際、講師等の費用は技師会で負担して頂けるとのこと。

第3号議案

撮影室の実行稼働負荷の設定・算出・届出について

・直近の最大値から多少の増減を見込んだ値で良いのではという意見もでたが、詳細はメーカーへ問い合わせたほうが良いのではないかという意見も出た。

月報（業務量）の統一（件数・人数・モダリティ等）

業務集計の統一：実態調査アンケートをベースに算出方法を全国で統一することの提案

・今回アンケートを行った背景には、本社で行っている業務統計において各施設で集計方法が異なっていることがあった。このため今後は今回のベンチマークをもとに修正を加えながら使用し統計を継続していく。

【その他】

- ・技師会のHPがリニューアルしSNSでの情報交換も可能になったので有効に活用して頂きたい

- ・連絡員の役割について：各専門部会から発信された情報を各会員に発信・収集する
- ・来年度の研修会の日程が11月7、8日（土、日）と決まったが、宿泊費が高くなりそうなため支部に会場費を助成してもらえないか交渉する

2014年11月12日

文責 井戸沼 佳明 鈴木 悠（那須）

確認 手塚 章一（那須）

日本赤十字社診療放射線技師会第5回中部ブロック業務研修会プログラム

1日目 9月6日(土)

会場 3病棟1階研修ホール
総合司会 西條貴哉

13:00 当番病院挨拶

名古屋第二赤十字病院 瀬口繁信

13:05 日本赤十字社診療放射線技師会会長挨拶

深谷赤十字病院 清水文孝

13:15 セッション1「メディカルコーチング」

特別講演「最高の病院になるために全病院的なコーチングを導入

“コーチングで病院を変える” “コーチングを病院の風土に” ～2年間の成果と課題～

名古屋第二赤十字病院 病院長 石川 清

座長 瀬口繁信

デモンストレーションコーチ 有賀英司

SH 希望なければ 谷貞和明

14:30 休憩

14:40 セッション2「パネルディスカッション医療安全知恵の輪報告会」

伊勢赤十字病院 柴原卓彦

伊勢赤十字病院 藤原綾香

静岡赤十字病院 樋口雅美

富山赤十字病院 廣瀬 正

長野赤十字病院 山崎淳弘

名古屋第一赤十字病院 大西勝治

福井赤十字病院 石田智広

座長 名古屋第二赤十字病院 駒井一洋

16:00 専門部会ミーティング会場 画像診断センター、高精度放射線治療センター他
ブロック代表者会議 会場 3病棟1階研修ホール

17:00 終了

18:00 意見交換会

会場 神戸屋
司会 猪岡由行
次期開催病院代表者挨拶

2日目 9月7日(日)

会場 3病棟1階研修ホール
総合司会 西條貴哉

09:00 セッション3「施設紹介」

富山	四十九一嘉
福井	西村英明
長野	山崎淳弘
諏訪	山中克修
安曇野	千野紗貴子
下伊那	武田貞弘
飯山	佐藤文彦
高山	山下光弘
岐阜	小林洋隆
静岡	澤元志のぶ
浜松	荒井知美
裾野	庄司智昭
名古屋第一	山田健
名古屋第二	小野木学
伊勢	村田達紀

10:20 セッション4「モニター管理の現状と今後」

伊勢赤十字病院	太田旭彦
福井赤十字病院	野口清直
安曇野赤十字病院	茅野充治
名古屋第二赤十字病院	新美孝永
座長 福井赤十字病院	石田智広

11:20 休憩

11:30 セッション5「原子力災害における日本赤十字社診療放射線技師の役割

—今取り組んでおくべきこと—

長浜赤十字病院	松井久男
座長 名古屋第二赤十字病院	桑原和義

12:20 閉会の挨拶

伊勢赤十字病院	大山 泰
---------	------

12:25 終了

近畿ブロック活動報告

日本赤十字社和歌山医療センター 井澤 秀恭

第23回近畿ブロック研修会

開催日時：平成27年2月28日（土）～3月1日（日）

開催場所：日本赤十字和歌山医療センター

『本館12階多目的ホール』



（日本赤十字社和歌山医療センター）



（本館12階から見た夕暮れの和歌山城）

春は桜、秋には紅葉で綺麗に染まる虎伏山。その高台にそびえたつ白亜の天守閣。徳川御三家の一つ、八代将軍吉宗で有名な紀州藩紀州徳川家の居城、国の史跡にも指定されている和歌山城（別名：虎伏城）。その素晴らしい天守閣を見晴らせる眺望の良い本センター12階多目的ホールにて、12施設、99名参加のもと第23回近畿ブロック研修会を開催しました。

今回の研修会は、「来る災害に備えよう！」というタイトルを掲げ、東日本大震災の放射線災害における教訓を基に、日本赤十字社が推進する「日本赤十字原子力災害対応基礎研修会」と同等の研修を取り入れました。日本赤十字社診療放射線技師会災害医療支援部から講師4名を迎え、放射線災害の現場に於いて私たち放射線技師に必要な知識と技能について、講義と実習をして頂きました。実習においては防護服の着脱方法を体験し、また、デジタル式個人被ばく線量計からパソコンに被ばく線量を読み取る方法を学びました。

原子力災害における空間線量シミュレーションの実習では、難解な計算に四苦八苦しながら積算線量が1mSvを超えないように、活動内容をシミュレートしました。

これらの講義と実習を通し、私たち放射線技師は「救護班要員の安心と安全を守る。」という大変重要な役割を担っていることを学びました。

2日目の研修では、部門別検討会を行い、一般撮影、CT検査、MRI、血管撮影、核医学、放射線治療がそれぞれに分かれ、各施設での現状や問題点等を議論し、情報交換・情報共有を行いました。その後、院内放射線科部の施設見学をしていただき、最後に可搬型DRのランチョンセミナーを終えて閉会となりました。

今回この研修会では、会員の研究発表は行いませんでしたが、内容の濃い有意義な情報交換の場を提供出来た研修会であったと思っています

第23回日本赤十字社診療放射線技師会

近畿ブロック研修会プログラム

☆ 第1日目・平成27年2月28日(土)

12:00 受付開始

13:00 開催担当施設挨拶

放射線科技師長：井澤秀恭

和歌山医療センター院長：百井 亨

副院長兼放射線科部長：筒井一成



(井澤技師長)



(百井院長)



(筒井部長)

13:30～17:00

「来たる災害に備えよう(原子力災害)」

講演・実習

座長：駒井一洋(名二)

日本赤十字社診療放射線技師会

災害医療支援部被ばく医療メンバー

講師：駒井一洋(名二)

松井久男(長浜)

坂井征一郎(唐津)

高木研二(松山)



(講演・実習風景)

18:00 情報交換会 進行係：山崎正樹（和歌山）
 ホテルアパローム紀の国

☆ 第2日目・平成27年3月 1日（日）

9:00～11:00 部門別検討会 総合司会：川合 久之（和歌山）



(部門別検討会の写真)

【9:00～10:30 施設代表会議(101) 議長：松原健夫(高槻)】

11:00～12:00
 施設見学 放射線科内
 (地下1階、救急撮影室、本館4・6階)

12:00～12:50 ランチョンセミナー

座長：岩井計成（和歌山）

「ワイヤレスタイプ可搬型DR AeroDR PREMIUMのご紹介」

コニカミノルタヘルスケア株式会社

マーケティング本部MS営業部：中村一起



(ランチョンセミナー風景)

12:50 次期担当病院挨拶

姫路赤十字病院
放射線科技師長：中島敏弘

閉会のあいさつ

和歌山医療センター
放射線技術第二課長：川嶋宏樹



(姫路日赤・中島技師長)



(和歌山・川嶋課長)

研修会出席者名簿

大津赤十字病院

小川 正 武田 宣明 森田 光正
井上 努 中西 明 鈴木 敬俊

大津赤十字志賀病院

本多真理子

長浜赤十字病院

奥出 隆夫 金森 義孝 松嶋 弘幸 西関 剛
福田 哲也 篠田 晃宏 田辺 沙織 寺村 リサ

京都第一赤十字病院

平川 益三 福田 勤也 布施 俊明 藤川 守
前田 健一 八木 絢子 澤 悟史 井俣真一郎
森田 千瑛 堂屋 瞳 宍道 知佳

京都第二赤十字病院

正者 智昭	木村 嘉則	河本 勲則	安藤 公人
辻本 武志	木村 和弘	古和田 健	竹上 潤司
谷口 奈美	渡利 信也	田代 祐基	古田 淳史

舞鶴赤十字病院

藤原 朗

大阪赤十字病院

福田 浩士	加賀 久喜	下川 和宏	吉澤 雄介
嶋田 祐子	玉井 良昭	鈴木 仁志	高木 真

高槻赤十字病院

松原 健夫	関本 淑徳	涌田 哲成	
松山 佳央	渡邊 良彦		

神戸赤十字病院

古東 正宜	浅妻 厚	新井 純一	
上江 孝典	辻居 賢一	北岡 千愛	

柏原赤十字病院

川上 範文	上垣 友里		
-------	-------	--	--

姫路赤十字病院

中島 敏博	井出 充浩	松井 寛	大塚 義修
福田 尚也	辻井 貴雄	細岡 裕之	

日本赤十字社和歌山医療センター

井澤 秀恭	口井 信孝	川合 久之	川嶋 宏樹
岩井 計成	北垣 徳文	堂内 一雄	河端 京介
嵯峨根 満	林 伸和	川村 佳生	花田 剛
角 正次	渡邊 眞也	吉川 方登	渡邊 奈美
山崎 正樹	湯浅 大輔	鈴木 論	坂東 明彦
仁木 崇人	黒田 勇樹	小林 弘幸	田淵 純平
小森 優美	大笹 文靖	大西 智子	福田 一茂
松村 瞳	橋戸 宏輔	赤阪 ひとみ	東口 奈央

(以上99名、敬称略、順不同)

平成 26 年度 中四国ブロック研修会開催報告

高松赤十字病院 技師長 安部一成

例年であれば、もう少し早い時期に開催される中四国ブロック研修会ですが、平成 26 年度は担当施設である本院の諸事情により、寒さ厳しい 2 月 28 日に開催されました。誠に雪が降らない四国の地ですが、それでも毎年 2 月頃には雪による交通機関への影響が出ることもあり若干の心配もありましたが、取り越し苦労に終わり安堵しています。

今回は「放射線災害への取り組み」をテーマに、まず清水会長に本会の活動に加え、赤十字本社としての原子力災害への取り組みについてご講演いただき、日本赤十字社の具体的な取り組みや方向性などについて、分かりやすく解説していただきました。



清水文孝会長



梶谷技師長

引き続き、折しも本研修会直前に「日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会」に参加し研修を終えたばかりの本院藤原会員からその内容や模様についての報告があり、前半を終えました。



藤原会員



磯田技師長



吉崎会員



研修風景

後半は、香川大学医学部附属病院副技師長、笹川泰弘先生に「放射線被ばく影響と防護」～福島原発事故からの教訓～と題してご講演いただきました。笹川先生は、この分野では大変造詣が深く、参加された会員の皆様には非常に貴重な講演内容ではなかったかと思えます。



笹川先生



安部技師長



ケーススタディ



古川会員と松村会員

最終プログラムは、被災された方からの質問を想定したケーススタディを企画しました。質問者と回答者側に分かれて放射線の影響などへの質問にどう対応すればよいかをシミュレーションするわけですが、当日の急なお願いにもかかわらず、回答者役を快くお引き受けいただいた松江赤十字病院の古川様と松山赤十字病院の松村様には心から感謝申し上げます。



ケーススタディでの会場風景



入川技師長

最後に、次回担当施設鳥取赤十字病院の入川技師長様よりご挨拶をいただき、研修会を終えました。53名の参加者の元開催された研修会も無事終わり、その後の情報交換会では38名のご参加をいただき、それぞれに日常業務や関心事について情報を交換し、またそれぞれの席で会話の花が咲き、有意義な時間を過ごすことができました。

研修会に参加された皆様、大変お疲れ様でした。

第 15 回 日本赤十字社 診療放射線技師会 九州ブロック研修会

平成 26 年 9 月 13 日・14 日

プログラム

1 日目 (9 月 13 日)

- 13 : 00 受付開始 演題発表受付
- 13 : 30 開会挨拶
- 13 : 40 福岡赤十字病院院長挨拶
福岡赤十字病院院長 寺坂 禮治
- 14 : 00 特別講演 I 「悪性リンパ腫と画像診断」
福岡赤十字病院 血液内科部長 谷本 一樹
(座長) 福岡赤十字病院 山口 英雄
- 15 : 00 教育講演 「SOMATOM が切り開く新たな CT フィールド」
シーメンス・ジャパン (株) 桃沢 芳典
(座長) 福岡赤十字病院 八波 誠一
- 16 : 00 施設紹介 「福岡赤十字病院」
福岡赤十字病院 備後 公史
- 16 : 30 福岡赤十字病院 施設
- 17 : 00 ブロック代表者会議
- 18 : 30 情報交換会

福岡東映ホテル

2日目 (9月14日)

9:30 司会挨拶

9:40 一般演題発表

(座長) 福岡赤十字病院 馬場啓介

「足部立位撮影を安全に行う為に ~TQM活動を通じて~」

大分赤十字病院 日野 雄介

「Elekta Synergy の使用経験」

熊本赤十字病院 藤井 竜一

「SEMAR を用いた金属アーチファクト低減効果の有用性の検討」

熊本赤十字病院 岩崎 雄太

休憩

「当院における CT 業務の変遷」

唐津赤十字病院 平田 一英

「心筋シンチ減弱補正 SSPAC の使用経験と基礎的検証」

福岡赤十字病院 永尾 卓也

「CT室内における造影剤副作用発生例への対応」

福岡赤十字病院 伊達 明博

11:00 特別講演Ⅱ

「アロマセラピーとストレスケア」

アロマセラピスト・診療放射線技師 村上 摩弥

(座長) 福岡赤十字病院 桑野 さゆり

12:00 閉会の挨拶

次回担当施設紹介 挨拶

修了証書授与

第15回 日本赤十字社 診療放射線技師会 九州ブロック研修会

今回の研修会は、40名の参加者があり、盛大に行われました。特別講演2題、教育講演1題、一般演題6題と内容も充実しており、大変有意義なものとなりました。情報交換会では、他施設の方々との会話もはずみ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

以下に研修会の内容を報告します。

特別講演Ⅰ 「悪性リンパ腫と画像診断」

福岡赤十字病院 血液腫瘍内科部長 谷本 一樹



悪性リンパ腫とはなにか。症例を提示して画像診断について分かりやすく解説していただきました。

特別講演Ⅱ 「アロマセラピーとストレスケア」

アロマセラピスト・診療放射線技師 村上 摩弥



香りで何故リラックスできるのか？ストレスと脳の関係や医療現場での利用の可能性について講演していただきました。実習では、バスボム（入浴剤）作りを体験しました。

教育講演 「SOMATOM が切り開く新たな CT フィールド」

シーメンス・ジャパン（株） 桃沢 芳典



2管球システムの SOMATOM Force について、低被曝と圧倒的な撮影時間の短縮を可能とする最新の情報を紹介していただきました。

一般演題

① 「足部立位撮影を安全に行う為に ～TQM 活動を通じて～」

大分赤十字病院 日野 雄介



足部立位撮影を改善することを目的として、TQM を通じて安全面において改善された上に撮影方法の統一化を図られ、再現性のよい画像を提供することを可能にした。

②「Elekta Synergy の使用経験」

熊本赤十字病院 藤井 竜一



今年の6月に放射線治療装置である Elekta Synergy が導入された。今回の導入により、4DCT を用いた体幹部定位放射線治療が可能になったことにより、腫瘍に効率よく照射することができた。

③「SEMAR を用いた金属アーチファクト低減効果の有用性の検討」

熊本赤十字病院 岩崎 雄太



今年7月、Aquilion One における新しいソフトウェア SEMAR (金属アーチファクト低減処理) が導入された。SEMAR を使用すると通常金属アーチファクトが低減されて画像向上が期待されるが、実際に画像を検討したところ、非常に効果のあるものから新たにアーチファクトが発生し画質が低下した症例も経験した。

④「当院における CT 業務の変遷」

唐津赤十字病院 平田 一英



当院導入のCT1号機から現在までの機種、検査法、検査件数などについて懐かしい画像とともに紹介しました。

⑤「心筋シンチ減弱補正 SSPAC の使用経験と基礎的検証」

福岡赤十字病院 永尾 卓也



心筋シンチでは体内でのガンマ線の減弱が原因で下壁、中隔領域で画素値が低下する事が知られており、病的欠損と見分けがつかず、診断の精度を下げる一因となっている。SSPAC 法は新しい補正法として有用であると思われるが、心尖部では過剰に評価される場合もあり、その対処について検討が必要である。

⑥「CT 室内における造影剤副作用発生例への対応」

福岡赤十字病院 伊達 明博



当院にて、実際に経験した造影剤副作用発生例の紹介と、それに対する対応の振り返りを行った。副作用発生時に自分から行動ができるよう、日頃から対応を想定して検査を行うことが大切である。

日本赤十字社 診療放射線技師会 第22回 近畿ブロック研修会報告

日時：平成26年3月1日（土）～ 2日（日）

担当病院：京都第二赤十字病院

会場：京都第二赤十字病院会議室 及び ホテル ルビノ京都堀川

参加者：13施設 104名

【研修会内容】1日目

施設見学の後、京都第二赤十字病院 日下部虎夫病院長先生 と 辻秀憲技師長の挨拶にて研修会の幕が開きました。



一般撮影フロア

FPD ポータブル装置

血管撮影室

CT室



治療室

アイソトープ室

MRI室

骨塩定量室



日下部虎夫 院長先生

辻秀憲 技師長

『今こそ 見直す 安全管理』をテーマとし、まずは他職種での安全管理として、～京都ブライトンホテルの安全性を保つために～と題し、浪速ゆき子先生に講演頂きました。



(株)ブライトンコーポレーション 総務部人材教育 浪速ゆき子 先生

その後、徳田洋子看護師長の「当院における医療安全取り組み」－看護業務におけるKYT－の講演は、

グループディスカッション「放射線業務における KYT」につながる内容で構成して頂き、盛況のもとディスカッションまで進行了ました。また、会員各位の親睦はもとより、各施設での医療安全取組みのきっかけになったものと思われまます。



京都第二赤十字病院 医療安全推進室 徳田洋子 看護師長



グループディスカッション「放射線業務における KYT」 ～イラストKYT 4ラウンド法～



イラストKYT スライド

行動目標呼称「〜〜よし！」

グループディスカッションのグループメンバーで情報交換会を開始し、大いに盛り上がりました。



情報交換会 会場

【研修会内容】2日目

午前9時より、会員学術発表を行いました。15 演題と多数のエントリーがありました。



会員学術発表 会場

最終プログラムであるランチョンセミナーでは、東芝メディカルシステムズ(株)から「被ばく低減技術と今後の対応について」の講演をいただきました。



東芝メディカルシステムズ(株)営業推進部 CT 担当 小谷野智弘 様

閉会式では、次期開催担当病院である日本赤十字社 和歌山医療センター 井澤秀恭技師長より、ご挨拶があり、来年度の研修会再開を約束されました。最後に辻技師長のお礼の言葉により、研修会の幕が閉じました。



井澤秀恭 技師長

辻秀憲 技師長



担当病院：京都第二赤十字病院 放射線科部 技師 27 名

平成 25 年度 中国四国ブロック研修会開催報告

岡山赤十字病院 技師長 梶谷 努

平成 25 年度第 3 回中国四国ブロック研修会が平成 25 年 3 月 22 日（土）に岡山赤十字病院で開催され 12 施設 38 名の参加を頂きました。施設見学、清水会長の特別講演、研修会のテーマとして【造影剤検査の運用について】を掲げ活発な意見交換がなされました。

施設代表者会議では今後のブロック運営について話し合わせ、来年度担当病院は高松に決まりました。また情報交換会では、「顔の見える会」を目指し親睦を深めました。



第2回日本赤十字診療放射線技師会中国四国ブロック研修会

開催日時：平成26年3月22日（土）

開催場所：岡山赤十字病院 センター棟研修室

- 13:00～ 受付開始 施設見学（希望者）
13:30～ 施設代表者会議
14:00～ 開会式 司会 岡山赤十字病院 横山誠一
14:05～ 開会の挨拶 岡山赤十字病院 梶谷 努
14:10～ 特別講演 座長 岡山赤十字病院 梶谷 努

「時代をつなぐ＝もっとクロス＝」

日本赤十字診療放射線技師会

会長 清水 文孝

<休憩 10分>

- 15:30～ 一般演題 座長 岡山赤十字病院 橋本幸太郎
「造影剤運用について」
演者
高松赤十字病院 吉崎康則
山口赤十字病院 河野 拓也
広島赤十字病院 山根健二
松江赤十字病院 森脇 武志
徳島赤十字病院 多智花 健太

<休憩 10分>

- 16:30～ 教育講演 座長 岡山赤十字病院 有森秀夫
「造影剤 副作用の予防と対策」
エーザイ株式会社 古内 康太
17:30～ 閉会式
閉会の挨拶 岡山赤十字病院 横山誠一
18:30～ 情報交換会

第40回長野県赤十字放射線技師会研修会 議事録

2011/09/11長野赤十字病院 新棟 2F会議室

【総会】

- ・会長挨拶 牧内会長
- ・記念贈呈

会長が各施設と会員一人に1つずつ、40回を記念して多機能懐中電灯が贈呈された。

- ・会費について
変更なし。
- ・規約の変更について

「研究補助金」の制度がありますので利用していただきたい。施設の所属長に申請。

- ・中部ブロック、全国会議報告 牧内（諏訪）

中部ブロックについては、今年度、高山赤十字で開催された。

内容は「EIZOについて」、「災害について」、業務連絡会議。来年度は安曇野赤十字で開催されるが、日程は未定。

全国については、今年度、書類にて総会が行われた。諏訪の牧内が理事に選出された。全国赤十字放射線技師会のホームページでは分科会が立ち上がり、活発になってきており、どんどん参加してくださいとのことであった。

- ・事業報告及び収支決算について 矢崎会計（諏訪）

承認された。支出の口座管理とは法人としてのキャッシュカードの作成の費用である。

- ・事業計画及び収支予算について 矢崎会計（諏訪）
承認された。
- ・監査報告 伊藤幹事（下伊那）
承認された。

【記念講演】

「広域大規模災害での放射線部の対応」 石巻赤十字病院及川純一氏

放射線部の被害、運営について発生直後、検査を中止し患者さんの避難誘導が行われた。人的被害はなく、装置はすべて無事であった。MRIではヘッドコイルの一部が破損した。サーバーは無事であった。2Mカラー高精細モニターは院内に約100台あるが、破損したのは8台であった。放射線部内は自家発電により電力が供給された。一般撮影では1台の撮影装置とポータブルで対応した。フィルムレスになっており、フィルム1000枚の在庫があったが、すぐに無くなってしまった。CTでは読影がトリアージの赤ではモニターで、緑、黄については装置のモニターで対応した。MRIではヘッドコイルの破損などにより、発生後6日目から検査を開始した。各トリアージ場所での読影はCTと同じである。放射線治療については10日後から再開された。12時間勤務や2週間ぶりの休日など、大変苦勞されたようであった。

講演後の質疑応答では被災した病院へサポートに行けるように病院のホームページに使用している装置のメーカーや機種を掲載してほしいという要望があった。【業務連絡】

- ・各施設の問題について各施設の当直の状況について報告され、よりよい環境を求めて病院と協議して

いる施設が多数あった。

- ・役職名称について課長職については 1課長、 2課長というのではなく画像管理課長などの名前をつけている施設が多数あった。医療技術部については、まだどの施設でも完全には施行されていない。
- ・機器共同購入について下伊那赤十字では共同購入が行われ、金額はあまり変わらないが、保守がプラス 1年というメリットがあるということだった。

【共同テーマ】

- ・大規模災害時の放射線部の対応放射線部独自のマニュアルがある施設もあったが、ない施設も多数あった。
- ・撮影マニュアルの整備長野赤十字の撮影マニュアルが多数の施設で使用されていた。安全管理のマニュアルが電カルで見ることが出来る施設もあった。
 - ・学術実績資料集めのみであった。
- ・画像管理完全フィルムレスの施設もあったが、一部フィルム出しの施設も多数あった。技師以外が CD-Rを焼く施設も多数あった。
- ・人事交流多数の施設が装置の研修のみであったが、がんセンターと交流している施設もあった。
 - ・AIについて多数の施設が年に数回程度行っている。内規についてはどの施設も作成されていない。一部で作成中。

2011. 9. 11

第40回長野県赤十字放射線技師会研修会

(長野赤十字病院大会議室)

学術共同テーマ

議事録

1) 規模災害時、放射線部の対応は(検査体制やスタッフ拘束等・応援体制)

飯山地区では震度5以上は病院に登院、緊急連絡網はあるが放射線部のマニュアルはない、病院のマニュアルはある。(飯山)

震度5以上の場合は病院へ来られる者は病院に登院、災害訓練は行っている。災害対策マニュアルあり

一般撮影はフィルム、CTは本体で読影。(長野)

施設は免震構造でソフト面では震度6弱で登院、CRプリンター用フィルム1000枚備蓄、ポータブルは救急部に常備している。(安曇野)

開院時では施設の安全を確認して、患者を避難誘導。(川西)

病院より、一斉メールにて全職員に災害のための登院連絡が入る。検査が行える状態ならばX-P、CT、X-TV等、対応する。状況により、USのみ対応する。通電していなければ、トリアージの設置・患者の搬送手伝い。(諏訪)

当院の訓練では放射線科のある建屋は震度5~6では倒壊予定になっている。停電と倒壊で放射線科は機能停止となり、技師は救護員への配置となる予定、仮設の準備しだいでポータブル撮影がやっと思っている。防災対応マニュアルに従って対応している。年一回防災災害訓練。(下伊那)

2) 各部門・撮影マニュアル整備状況は

長野日赤の撮影法マニュアルを参考、安全面でのマニュアルは各モダリティにある。(飯山)
各部門マニュアルは整備されている(病院機能評価用)。電カル上にはない。細かい撮影マニュアルは各部署にて対応。当直で使用するような機器は操作マニュアルが完備している。(長野)
紙ベースでは長野日赤の撮影法マニュアルを参考、各モダリティごとの操作マニュアルはある。各パソコン上の共有ファイルにて撮影業務マニュアルを作成中。(安曇野)
一般撮影：長野赤十字病院のマニュアルを参考CT：造影時のディレイタイムのみ有骨密度(前腕用)：メーカー説明書にてMDL：食道、レリーフ、二重造影、充滿、噴門、圧迫、十二指腸(8部所、20回撮影)(川西)

各撮影マニュアルは整備されている。(病院機能評価用)電カル上にはない。細かい撮影マニュアルは各部署にて対応各部門に撮影及び緊急時の対応マニュアルを用意してある。(諏訪)
撮影マニュアルは1994年の長野日赤版を使用
管理マニュアルは平成16年版を使用し(安曇野版を下伊那版に)現在は見直しを行っている。(下伊那)

3) 昨年度院内・院外講習会・学会実績は(記録を含め)

記録している。(飯山)

年単位で医誌編集のため、演題発表の記録は取る。学会講習会の個人の出帯記録は一応記録している。

出張申請したものには、技師長を通す為、把握している。(長野)

参加簿に記録している(安曇野)

県下放射線技師学術大会<軽井沢>マンモグラフィー撮影読影<松本>2ヶ月に一回院内委員会・部会主催の勉強会(川西)

院外(参加のみ)39件(諏訪)

日赤本社研修

MMG資格継続研修

南信支部勉強会(下伊那)

4) デジタル画像フィルムレスはどの程度、ロスフィルムなどの画

像管理・また検像システムは

フィルムレスはまだ移行していない。画像計測ソフトがあれば一般撮影はフィルムレスに完全に移行できるのか。ロスフィルムは1%以内になっている。たまにオーバーすることがある。(飯山)

マンモとデンタルはフィルム出力、他はフィルムレス。通常はCD-Rコピーだが登録医の一部のためにレーザーを一台残しフィルム出力対応している。必ず検像システムを経由してサーバーへ(アンギオ、RI以外)一般(手動)CT(10分)MRI(1時間)で自動送信ロスは検像システムでチェック、極力ダブルチェック。(長野)

マンモグラフィーは健診のみフィルム出力、股関節・膝関節人工関節置換手術用の撮影は別にフィルム

出力災害時には現状ではフィルム出力にて運用予定受付事務職員が画像取り込み業務を実施、画像取り込みの件数が多く、時間をとられる。(安曇野)

フィルム出力で実施、ロスフィルムをフィルム保存庫にて保存(廃棄依頼を総務課に出しているが、実施されず。検像は各自で検像、2人いれば2人で検像。(川西)

マンモのみフィルム出力対応、ライナックの性能テスト。共同利用者には希望によりフィルム出力で行っている。検像は担当係がその都度画像確認する。(諏訪)

眼底カメラ以外は全てモニター診断、眼底カメラはデジタル保存(単独)でプリンター出力としている。月に150件程度。

特別な検像システムはないが、検像用パソコンに5Mモニターをつけて、受付で管理している。(下伊那)

5) 施設との放射線技師・人事交流については。

なし。(飯山)

なし。(割愛はある)モダリティの更新のため、研修に行ったり来たりの交流はある。(長野)

交流はなし。病院ホームページで使用機種がわかれば、災害時応援にいけるのではないかと。(安曇野)

なし。(川西)

長野より技師長が来られた。(2年間)ライナックの担当者が、機種変更の際にがん研・有明Hpに1ヶ月交替で研修に行った。(諏訪)

なし。MMG件数(月120~130名)担当の女性技師を募集しています。誰か紹介してください。(下伊那)

6) その他、協議してもらいたい議題があれば。

問題提起

警察からのAiは現在では断っている。各施設はどうでしょうか。救急救命センターでAiについて対応していくとの方針技師の体を守るためにはどうするの?(長野)

Aiをおこなっているが決め事はない。CPAはAiを行っている。警察鑑識では黒いビニールの中に入れてそのまま撮影している。金属入ってもそのまま。(諏訪)

飯田署の中で依頼がある。ただあってもAiは年1件程度。(下伊那)

救急からと警察からオーダー、問題は請求金額をどうするか?(安曇野)

Aiについては年間数件あるかないか。検査中に手袋して実施。検査代金は1体一万五千元ほど。(川西)

下伊那では2年後予定でオーダリング委員会が出来た。今は電カルの一部として、オーダリング機能がある時代らしいが、電カル又はオーダリングはどう導入すべきか?県内赤十字の導入状況は(下伊那)

—事後アンケート回収で問題提起、次回の検討議題に入れる。

文責 学術担当
安曇野赤十字病院
山本賢二



第 41 回長野県赤十字放射線技師研修会日程

平成 24 年 11 月 11 日 (日)

飯山赤十字病院会議室

9 : 30 ~

【受付開始】

10 : 00 ~

- 【総会】
- 1、開会の辞
 - 2、会長挨拶 牧内 (諏訪)
 - 3、会計報告 町田 (諏訪)
 - 4、監査報告 伊藤 (下伊那)
 - 5、役員改選

【業務連絡会議】

12 : 00 ~

【昼食】

13 : 00 ~

【学術】 1、講演会

座長 学術部 山本 (安曇野)

「フラットパネル搭載デジタル一般撮影装置の

アプリケーション」

GE ヘルスケアジャパン (株) TPI アプリケーション部

XRグループ長 船木 新壽 先生

14 : 00 ~

2、共同テーマ

技師の専門性をどのように伸ばしているか？

造影剤注入器の保守点検について

電カル、オーダーリング、部門システムの状況は？

その他

15 : 30 ~

【閉会 (予定)】

平成 24 年 11 月 11 日

第 41 回長野県赤十字放射線技師研修会 議事録

記録者 飯山赤十字病院 高澤茂正

1、会長挨拶

牧内 正史 (諏訪)

昨年は、東日本大震災があり、世間では災害モード一色であり、第40回の節目の会を石の巻赤十字病院の及川課長講演で盛り上げていただきました。

本年は、災害復興であり、原発問題がありました。その中で、良い知らせと悪い知らせがあります。

悪い知らせは、長野赤十字病院の八町淳さんが8月30日に大型バイクで郡山ジャンクション付近で不慮の事故にあい亡くされました。

全員で黙とうをする。

良い知らせは、OBの田中達夫（元川西赤十字病院技師長・全国赤十字技師会副会長歴任）さんが、厚生大臣賞を受賞されました、当技師会から功労金を贈呈表彰します。

また、1月19日に長野県放射線技師会で、祝賀会を催しますので、多数の参加をお願いします。

2、会計報告

町田 壮平（諏訪）

別紙1 承認された。

質問あり

会費の残高が多いが何か使用する予定がありますか？ 飯山 佐藤

会員発表で補助金を出すようになりましたので活用してください。施設で年一回赤十字以外の発表でもいいです。 下伊那 伊藤

3、会計監査報告

伊藤 保（下伊那）

別紙2 承認された。

4、役員改選

平成25年度～26年度（一期二年）

会長 飯山 高澤

副会長 長野 小林（ブロック委員を兼務）

学術 安曇野 山本

監事 諏訪 牧内（全国理事を兼務）

承認された。

5、業務連絡会議

全国赤十字放射線技師会報告

- ・HPをもっと利用してください。
- ・施設基準各届出の「専従」の取り扱いについて、厚生局監査があったので核施設は、確認してください。

中部ブロック報告

- ・日本赤十字放射線技師会中部ブロックが本格的にスタートした。長野 北陸 名古屋から、理事1名委員2名が交代で選出することになった。

長野県では長野県赤十字放射線技師会副会長がブロックの理事か委員を順番で兼務していくこと
をお願いします。次回は長野の小林さんがブロックの委員となります。来年は三重県の伊勢日赤が担当
となり一泊二日で行なわれますので、二日間の出張で病院に申請していいと思います。

以上



第41回長野県赤十字放射線技師会研修会

(飯山赤十字病院会議室)

学術部 山本 賢二

共同テーマ学術アンケート結果

テーマ1) 技師の専門性をどの様に伸ばしているか?

(研修方法とローテーションについて)

長野赤十字病院

技師の専門性→各部署に配置した中で自己研鑽に励んでもらっている。

ローテーション 定期的なローテーションは実施していない。

諏訪赤十字病院

新人は初年度4月～7月にかけて一般撮影、CT、ポータブルを回って当直業務に入る。各部門に専任者を設け、専任者を中心とした1～3か月の指導を行っていく。

1人2～3部門を掛け持ちしており、1週～1か月のローテーションを行っている。

基本的に1週間交代で新しい部署への交代、放射線治療部門は固定。

認定技師取得は各部門で必要があれば、(マンモ、血管撮影、超音波、治療等) 認定技師、専門技師等。

通常ローテーションは1週間ごとに、中間技師層は1週間と固定勤務を組み合わせ業務を実施。

安曇野赤十字病院

研修プログラムと呼ばれるものはない、ただし福利厚生制度(ベネフィット)等で研修補助が出る。認定技師費用は病院が認められているもの以外は自己負担。

業務ローテーション・係長はローテーションを行わない。

(マンモグラフィー認定技師1名) 女性技師3名認定を目指す。

飯山赤十字病院

新人が当直に入れるように研修、盆明けから当直業務、業務ローテーションはCT・MRI・マンモグラフィー等、モダリティーに5名ずつ担当を配置し業務を交代しながら勤務二人でマンモグラフィーを行っている。またCTとMRIは重複して業務を行う技師や、MRIとRIを両方担当している技師がいる。また1週間全く同じ業務を行うわけではなく 例えば

月曜日 MRI 火曜日一般撮影

水曜日透視 木曜日MRI 金曜日RI

など個々にローテーションわりと日替わりで業務を回る。

下伊那赤十字病院

研修: 組織的に必要なもの、技師においてはマンモグラフィー、例えば施設認定をとるために、病院負担で研修に行かせて、資格を修得する。それ以外では個人的に起案書を書いて、100%、50%、0%などいろいろなバリエーションがある。個人で行ってもら

っている。

正職員は2人のみで、健診マンモ水木AM中 パート職員1名にて患者半日に20名、一ヶ月に160名、それ以外朝3～4名業務ローテーションは2人だけなので例えばMDLが終わったら、一般撮影が空いている時間でCTなど2人掛け持ちでさまざまな業務を行っている。そのためローテーションは特に決めていない。

課内の全装置が操作できて、技師はどんな業務を行っても技師なので、仕事が全て出来るということが前提、例えばCTにおいてもプロトコールが作られていれば、こういった検査でもどうにかできることが前提で、当院において認定技師はあまり重要とされていないが、個人で取得することには、反対はしない。

川西赤十字病院

研修プログラムは無し、個人的な興味があれば、自分で時間を作って行く、業務ローテーションは技師2名しか居ないので、1名は一般撮影専任で、もう一人はCT・透視・ポータブルを担当する。ただし一般撮影が暇でCT等が忙しい時にはCTなどを行う。毎日日替わりで業務交替を行っている。

テーマ2) 造影剤注入器の保守点検と電子カルテについて

長野赤十字病院

CTは造影剤注入器は根本CTの保守契約に含めて年1回点検、放射線治療計画用CTは年1回スポット点検。

MRI：造影剤注入器は根本とメドラッド、MRI造影剤注入器の保守契約はなし年1回のスポット点検。

アンギオ室造影剤注入器はアンギオ本体の保守に含めて年1回実施。

電子カルテ平成22年3月フィルムレス

富士通HOPE/EGMAIN-GX DrABLE PSP

諏訪赤十字病院

CT造影剤注入器→更新したてで1年以内なので保守契約はしていない。

5・6年前のCTの造影剤注入器はスポットにて点検また始業点検と年2回の自主点検、MEの名前も連名で点検記録に署名。

アンギオ造影剤注入器 本体の保守に造影剤注入器の点検を含む。

電子カルテ富士通HOPE/EGMAIN-GX オーダーリング SYNAPSE

放射線情報管理システム F-RIS

新設の歯科口腔外科(10/1より)は、とりあえず紙伝票運用。

安曇野赤十字病院

CT・MRI造影剤注入器：年1回の定期点検

アンギオ(だいぶ前に購入なので)保守プログラムの中になく、年1回のスポットで対応している。

安全管理者はMEなので点検記録報告書を上げている。他の放射線機器も点検記録報告書とともにME課に上げている。

電子カルテ富士通HOPE/EGMAIN-GX PACS PSP

飯山赤十字病院

関東労務局の査察が最近あり、CT・MRI造影剤注入器年1回点検。

電子カルテは富士通 EG ASSIST EG MAIN/NT

病棟は電子カルテ、外来は紙カルテ、電子カルテとオーダーリングの更新予定は4年後現在富士通 EG MAIN/NT 放射線情報システム RADON

PACSはキッセイ 但し読影はNPOのからみでPSP

この中でキッセイはLinux→ライセンスフリー

PSP windows→ライセンス料発生

下伊那赤十字病院

造影剤注入器はCT用にネモト。

本社の共同購入でCT購入、2年間の無料メンテナンス。

営業所のある名古屋から他の病院の年2回の保守点検のついでにサービスとして訪問保守点検を行い、装置清掃と動作点検を点検契約がなされていない状況であるが無料で行っていた。今後も点検記録簿が無い状態で点検がされる予定。

当院の職員の中には電子カルテの中にPACSやオーダーリングがあることは認識している。オーダーリングは構築中電算(株)を導入中、PACSはフジオオーダーリングも考慮してPACSの端末を電算の管理で富士通のPCを導入2Mカラーモニターと白黒モニター、マンモ用に5Mモニター3台導入、またナナオのモニターをフジフィルム管理で導入している。そして代理店ワキタ経由でPCのグラフィックボード等で更新のとき、フジに電話すればよいのか、富士通に電話すればよいのか、ワキタにクレームすればよいのか

か解らない。PCのハードは放射線科では管理できず、導入がばらばらだと、保守等怖い問題がある。

川西赤十字病院

CT装置に造影剤注入器あり定期保守契約なし、サービスの方が巡回した時に診てもらっている。

電子カルテ・オーダーリングはまだ導入せず。紙カルテ運用、一般撮影画像のみKONICAのPACSに保存をしている。

会場より発言

安曇野赤十字病院 茅野氏

点検記録簿がないと法令違反になるので、作成してハンコを貰わないと保健所の監査で指摘される。装置メーカーは施設に納品する時に取扱い説明書に点検記録簿をつけなさいと記載している。

すべての点検をユーザーが行っていいもの以外はメーカーに相談がないと技師はやってはいけない。病院側としては安全責任者を設けて、記録を残してゆくことが必要となる。

その他議題

諏訪赤十字病院 牧内氏より

諏訪赤十字病院でも最近歯科口腔外科が診療を開始したが、電子カルテ上医科と歯科では異なっているが、どのような運用を行っているのか。

例えば放射線科ではパノラマ撮影とデンタル撮影ではどうしているのか。

会場より長野赤十字病院から返答

パノラマ撮影はCRにて撮影、画像サーバーに転送、デンタル撮影はアナログフィルムにて撮影、歯科にフィルム現物を患者に持たせ診察に使用、またオーダーリングは、例えば医科のパノラマと歯科のパノラマのようにオーダー項目を区別していれば運用には長野赤十字病院として、混乱はさほどないのが現状である。

以上

第42回長野県赤十字放射線技師研修会日程

平成25年11月17日(日)

佐久市駒の里ふれあいセンター

(川西赤十字病院)

9:30 【受付開始】

10:00 【総会】 1、開会の辞

2、会長挨拶

3、会計報告

4、監査報告

5、業務連絡会議

10:45 新人紹介

11:00 【学術】 【共同テーマ】

12:00 【昼食】

13:00 【会員発表】 マンモフラットパネルの使用経験
長野赤十字病院 河野 美和 会員

13:15 【講演会Ⅰ】 富士フィルムが御提供するマンモグラフィーソリューション
富士フィルムメディカル中部地区営業本部営業支援
グループ MS担当 増田 雅史 先生

13:50~14:00 休憩

14:00 【講演会Ⅱ】 マンモグラフィーの現状と課題
社会保険群馬中央総合病院 新井 敏子 先生

次期当番病院挨拶 記念撮影

功労者(退職者)表彰

15:30 【閉会予定】

平成25年11月25日

第42回 長野県赤十字放射線技師研修会 議事録

当番病院 : 川西赤十字病院
 開催日 : 平成 25 年 11 月 17 日 (日)
 開催時間 : 10:00 ~ 15:30
 開催場所 : 佐久市駒の里ふれあいセンター
 出席者 : 飯山病院 高澤茂正、桶田正彦、小川こづ恵、丸山洗貴
 長野病院 小林 実、河野美和、桑原行弘、大澤はる美、
 山崎淳弘
 安曇野病院 関 利明、山本賢二
 諏訪病院 牧内正史、森田啓之、岩間 翔、関 真司
 堀田幸治朗
 川西病院 坂戸 基、三井宏映
 下伊那病院 武田貞弘 計 19 名

[議事内容] 司会 牧内正史 (諏訪)

総会議題

会長挨拶 高澤茂正 (飯山)

今回赤十字技師会中部ブロック会議が伊勢赤十字病院で開催された。

今後は中部ブロックおよび長野県赤十字技師会の2本立てで開催予定である。

1. 会計報告 桶田正彦 (飯山)

24年度決算報告および25年度予算計画に関して報告が行われた。

学術運営基金に関しては動きがない、できれば今後OB会開催、研究会へ補助を行って行きたいと考えている。会計報告に関して質問なし 全員一致で了承される。

2. 監査報告 牧内正史 (諏訪)

監事より帳簿、通帳、現金に関して適切な運用管理されている事を確認したとの監査報告がおこなわれた。

3. 業務連絡会議

*高澤茂正会長(飯山)・・・名称変更に関して

日本赤十字放射線技師会が日本赤十字社診療放射線技師会と名称が変更となった。

そのため当会も名称変更が必要と考えています。

質問、質疑等なし 今日総会を持って名称変更となった。

今後 規約の変更を行います。

長野県赤十字放射線技師会より → 長野県赤十字診療放射線技師会に名称変更

*全国赤十字技師会報告 牧内会員 (諏訪)

・医療安全「知恵の輪」に関して

全国の赤十字病院がすべて終了した事のお礼報告

・会員名簿に関して

赤十字技師会の会員専用ホームページより閲覧可能となりました。

アクセス番号が不明の場合は 牧内会員までご連絡ください。

・日本赤十字放射線技師会より日本赤十字社診療放射線技師会に名称が変更されました。

・平成26年度 学術総会は5月23日 24日 東京国際ホールで開催予定です。

・次年度退職者がいましたら本会に推薦しますので長野赤十字 小林ブロック委員まで連絡して下さい。

*その他

・小林会員 (長野)

本会より原子力災害に関してガイドラインが出された、今後 講習会や各施設での運用を含め検討をして行く必要があるのではないか。県下の赤十字技師会員もこの様なガイドラインが出た事を知っていた方が良いと思います。

・山本会員 (安曇)

女性技師への産休、当直等に関して各施設での対応を教えてください。

飯山・ ・結婚しても当直、ローテーションに変更なし。

産休の間マンモ撮影は他の女性技師が対応 場合によっては男性の場合もある。

妊娠が分った時点でプロテクターを必要とする業務には付かない
つわりがひどい場合には申し出れば休みあり、産休の間はパートあり。

長野・ ・妊娠が分った時点で当直免除、子供が6歳になるまで当直免除

当院は女性が数名いるのでマンモに関して男性が撮る事はない。

産休中 パート採用は可能

安曇野・未婚の女性が4名いる 複数名が産休の可能性もある。

諏訪・ ・産休中はパートで対応 産休明けは当直免除

マンモは複数の女性で対応、プロテクターを必要とする業務は免除

下伊那・現在パート女性技師1名(高齢)通常と変わらず。

・武田会員 (下伊那)

保健所立入検査において被曝線量管理で指摘あり 各施設での被曝管理状況を教えてください。

・飯山・ ・被曝管理は病院事務が行っている。

特に指導指摘はありません。

・長野・ ・バッジ配布管理は技師が実施、血液検査は衛生管理者(看護師で衛生管理者資格保持者)

が基準監督署への報告を一緒に行っている。

バッジ配布数は300程 配布者には半年毎 問診表を配布皮膚・水晶体・血液検査の項目に関し実施しています。

- ・安曇野・被曝管理用の血液検査は病院が行っています。
- ・諏訪・・・バッジの配布は70~80におさえました。
常時立入者のみ対象としました。
- ・川西・・・バッジ数は11ケ（5名分 総務課より管理 報告を行っているが保健所からの指導はありません。

[学術発表] 協同テーマ・・・撮影時における補助具の運用法に関して

各施設より代表者 発表

- ・発砲スチロールを使用した固定具の発表（手、指 頭部、大腿骨側面撮影）等々
- ・アントンセン ローゼンバーグ、等々の角度計
- ・カセットスタンド 踏み台による代用
- ・嚙下造影撮影における専用車いす、また代用方法による使用法
- ・砂袋による荷重撮影法への応用 に関して発表が行われました。

[新人会員の紹介] 今年度の新人会員の紹介が行われました。

長野・・・山崎淳弘

諏訪・・・岩間 翔、 関 真司、 堀田 幸治郎 以上 4名

[会員発表] 「マンモフラットパネルの使用経験」

河野 美和 （長野）

[講演会 I] メーカー講演・「富士フィルムがご提供するマンモグラフィーソリューション」

富士フィルムメディカル中部地区営業本部営業支援グループ MS 担当

池田 雅史 先生

デモ機による展示あり（モニター）

[講演会 II] 「マンモグラフィーの現状と課題」

社会保険群馬中央総合病院

新井 敏子 先生

全国マンモ認定技師の状況 機器管理や保守の重要性・管理に関して講演していただきました。

次年度開催当番病院は諏訪赤十字病院 牧内会員より開催出席依頼があり、全員で記念撮影を行いました。

第42回長野県赤十字放射線技師研修会



第 43 回長野県赤十字診療放射線技師研修会 日程

平成 26 年 11 月 23 日 (日)

諏訪赤十字病院 研修センター (2F)

9 : 30 【受付開始】

10 : 00 【総会】

1、開会の辞

2、会長挨拶

3、会計報告

4、監査報告

5、業務連絡会議 (当番病院確認)

10 : 45 新人紹介

11 : 00 【学術】

【共同テーマ】

12 : 00 【昼食】

13 : 00 ~ 13 : 40

演題名 「GE 社製 PETCT の特徴」

演者： GE ヘルスケア・ジャパン MICT 営業部 細谷一美 先生

13 : 50 ~ 14 : 20

演題名 「Discovery PET/CT 710 の使用経験」

演者： 諏訪赤十字病院 核医学センター 町田荘平 会員

次期役員選出 承認

次期当番病院挨拶

記念撮影

14 : 30 ~ 15 : 30 施設見学

15 : 30 【閉会予定】

平成26年12月15日

第43回長野県赤十字診療放射線技師研修会 議事録

議事録作成 諏訪赤十字病院 横沢 崇

当番病院 : 諏訪赤十字病院
開催日 : 平成26年11月23日
開催時間 : 10:00 ~ 15:30
開催場所 : 諏訪赤十字病院 研修センター
出席者 : 飯山 …高澤茂正、佐藤文彦、樋田正彦、丸山洸貴
長野 …小林実、西村勝幸、福澤明、佐藤一樹
川西 …三井宏映
安曇野…茅野充治、山本賢二、小口佳央理、藤沢友貴
下伊那…伊藤保
諏訪 …牧内正史、清水郷司、赤津英尚、森田啓之、
横沢崇、町田莊平、宮坂卓也、岡部佑耶、
五十嵐幸哲、山口健太、田口沙也加、塚田美咲

計26名

【総会】 司会 高澤茂正会長 (飯山)

議事内容

1・2.会長挨拶 高澤茂正会長 (飯山)

昨日、長野県北部で大きな地震があったが被害はどうでしょうか。本日の研修会はPETを中心にやっていきます。

3.会計報告 樋田正彦会計理事 (飯山)

平成25年度決算報告および平成26年度の予算計画に関して報告が行なわれた。
また会の名称が変更されたことにより、口座の名称も変更した。

<質問> 佐藤文彦 (飯山)

研究補助金が40000円とあるが、どの施設の誰がどんな発表をしたのかの記載がない。発表を行った会員への称賛も含め、事業報告をおこなってはどうか。

↓

研究補助は諏訪に1例、安曇野に1例、飯山に1例、長野に1例あった。研究補助の事業報告については次回より総会にて行うこととなった。

<質問> 伊藤保 (下伊那)

学術運営基金が使われていない。来年、中部ブロックの当番が長野にまわってくるので、それに向けて有効に利用できないでしょうか。若い人達が発表する際のサポートになるのではないかと。

↓

学術運営基金は何十周年などの節目に記念誌の発行や記念品購入の為の予算という経緯がある。研究補助に関しては一般会計の枠を広げてはどうか、細則第4条に一文たしてみてもどうか、1施設1名というルールの中では格差があるのではないかなど活発な意見交換が行なわれたが結論が得られず次回へ 継続審議となった。 会計報告は、全員一致で承認された。

4.監査報告 牧内正史監事 (諏訪)

監事より帳簿、通帳、現金に関して適切な運用管理されていることを確認したとの報告が行なわれた。

5.業務連絡会議

・中部ブロック報告 小林実中部ブロック委員 (長野)

来年11月に中部ブロック責任者会議が長野で行われる。

来年9月頃、中部ブロックの研修会が浜松で行われる。再来年は長野で開催となるので両年共ご協力よろしくお願いします。

原子力災害に対しての研修を行い、日本赤十字社の社員として救護班の役割を果たしていかなければならない。

・全国赤十字診療放射線技師会報告 牧内正史全国監事 (諏訪)

春の総会より、新しいホームページになりました。SNS機能もあり会員間の交流も可能となりました。相談、質問の際には是非ご利用してみてください。

・長野県診療放射線技師会より 佐藤文彦理事 (飯山)

名称が正しい名前に変更になりました。ありがとうございました。

県診療放射線技師会の理事が一新しました。赤十字の病院からは5名の方が選出されました。任期は一期ですが、二期お願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

平成27年1月10日に賀詞交換会が行なわれます。県臨床検査技師会と合同で、臨床検査技師100名と診療放射線技師100名の合計200名の規模で行われます。それと一緒に県の健康予防課の方より最近の医療情勢についての講演がありますので、是非、参加してください。

【新入会員の紹介】

諏訪・・・山口健太、五十嵐幸哲、田口沙也加、塚田美咲 以上4名

自己紹介があり「これから宜しくお願いいたします。」と挨拶がありました。

【学術発表】 座長 山本賢二 学術理事 (安曇野)

共同テーマ：院内画像ネットワークの現状と管理について ……別紙

各施設の画像ネットワークの構成、運用についての報告及び質問が行なわれた。

【講演会 I】

演題名「GE社製PETCTの特徴」

演者 GEヘルスケアジャパン MICT営業部 細谷一美 先生

GE社製のPETCTの歴史と最新鋭機器の紹介、現在使用している検出器の特性について講演を行った。GEでは2001年に国内初の、PETとCTを融合したDiscovery LSを市場に投入してから、Discovery ST、Discovery STE、Discovery 600シリーズを市場に投入している。最新のPETCTとしては、Discovery 710とDiscovery IQの2機種がある。Discovery 710はLYSOを素材とした検出器を採用し、TOF(タイム・オブ・フライト)技術を利用しての画質向上を図っている。Discovery

IQ は BGO を素材とする検出器を採用し、より高い感度特性と Q.Clear と呼ばれる最新の再構成アルゴリズムを利用することによって画質向上を図っている。どちらの機種にも CT の再構成には ASiR と呼ぶ逐次近似法による再構成アルゴリズムを採用することにより、患者の被曝低減に努めている。このように GE 社の PETCT は画質と被曝低減を両立させた最新のテクノロジーが採用されている。PETCT 検査は全身の悪性腫瘍検索や遠隔臓器転移の診断における保険適用拡大により、今後さらに有用性が増し、放射線診断に貢献すると考える。

【講演会 II】

演題名 「Discovery PET/CT 710 の使用経験」

演者 諏訪赤十字病院 核医学センター 町田 荘平 会員

当院では新たに PET/CT 装置 (GE 製 Discovery PET/CT 710) が導入され、8 月 18 日より稼動となった。装置の契約から稼動までのスケジュールや、装置導入に伴って行われた。当院施設の改修内容についての報告。また改修後の施設内の様子を写真にて紹介した。その後、当院における PET 検査の患者の入室から投与、撮影、退室までのタイムスケジュールおよび PET 撮影時 1 ベッドあたりの収集時間算出方法の紹介を行った。Discovery PET/CT 710 の特徴である TOF を用いた画像再構成について、TOF の簡単な原理の解説と、TOF を使用した画像と TOF 未使用の画像を比較し、SUV 値がどのように向上したかなど紹介した。PET/CT 装置導入から約 3 ヶ月における検査実施件数 (11/14 現在 : 193 件) と診療科ごとのオーダー数比較、稼動を開始してから発生した検査に影響の出たトラブルの内容などを報告した。

【次期役員選出】 平成 27 年度～28 年度 (一期二年)

前 会 長 : 高澤 茂正 (飯山)	→	新 会 長 : 小林 実 (長野)
副会長 : 小林 実 (長野)	→	副会長 : 茅野 充治 (安曇野)
監 事 : 牧内 正史 (諏訪)	→	監 事 : 高澤 茂正 (飯山)
学術理事 : 山本 賢二 (安曇野)	→	学術理事 : 武田 貞弘 (下伊那)
会計理事 : 桶田 正彦 (飯山)	→	会計理事 : 福澤 明 (長野)

以上 5 名に引き継がれ、承認されました。

「二年間、宜しく願い致します。」と新会長より挨拶がありました。

【次期当番病院挨拶】 伊藤 保 (下伊那)

松川では松茸が 10 月頃ピークになりますので、会長と相談し日程を考えていきたいと思います。お昼を楽しみにして下さい。

全員で記念撮影を行い、終了後、諏訪病院「核医学センター」の最新 PET/CT 装置と施設見学を行い散会しました。

第 43 回長野県赤十字診療放射線技師研修会



2014 年度

平成 26 年度災害医療支援部活動報告

(1) 日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会

標記研修会は、2013 年に発行された日本赤十字社「原子力災害における活動マニュアル」に基づき開催された。日赤救護班を原子力災害に対応させるべく、被ばく医療についての教育、実習を既存の救護班に対して行うという、日赤の歴史の中でも意義深い試みの一つであり、医師・看護師・事務職員そして今後原子力災害下での救護活動に同行する診療放射線技師が対象とされた。

氏名	所属	氏名	所属
坂井征一郎	唐津（災害医療支援部）	西郡克寛	福井
松井久男	長浜（災害医療支援部）	上田一樹	舞鶴
高本研二	松山（災害医療支援部）	磯田康範	松江
仁杉好一	石巻	山根健二	広島赤十字・原爆
海藤隆紀	福島	駒井一洋	災害医療支援部
北澤雅人	水戸		

緊急被ばく医療施設等所属 診療放射線技師（敬称略）

災害医療支援部は日赤の緊急被ばく医療関連施設等に所属する技師（上表）と共に、早期から運営に関わっており、災害医療支援部のリーダーシップの下、技師 11 名が以下の打ち合わせ会等に参加。その後第 1 回・第 2 回研修会においては講師、ファシリテーターを務めた。

- 8 月 26 日 [日本赤十字緊急被ばく医療指定機関等担当者による意見交換会]
10 月 11 日 [日本赤十字原子力災害対応基礎研修会事前打合せ会]
11 月 4 日 [千代田テクノル及び技師間打ち合わせ]
11 月 5 日 [第 1 回日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会]
参加施設数：37 医師：16 看護師：11 事務職：25 技師：12
2 月 20 日 [第 2 回日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会]
参加施設数：43 医師：23 看護師：21 事務職：21 技師：21

上記 10 名の技師は実際の原子力災害発災時に、現地災害対策本部等で、緊急被ばく医療アドバイザーとして活動することが本社から期待されており、平成 27 年度ではこれらの技師と医師を対象とした、緊急被ばく医療アドバイザー研修が本社にて開催予定である。

一方原子力災害対応基礎研修会は来年度も 2 回本社で開催予定であるが、平成 28 年度からは、ブロック単位の開催になる可能性が高い。

(2) 講師派遣

各ブロックの要請により、ブロック研修会へ講師を派遣。原子力災害対応に関する講演等を行った。派遣した講師と研修会は以下のとおり。

- 9 月 7 日 松井久男 中部ブロック
11 月 8 日 坂井征一郎 東部ブロック
2 月 28 日 坂井征一郎 松井久男 高本研二 駒井一洋 近畿ブロック

特に近畿ブロック研修では本社原子力災害対応基礎研修会に準じたカリキュラムを行うことがで

き、今後の技師対象原子力災害研修のモデルケースを構築することができた。

(3) 災害医療支援部会開催

3月1日(土)に和歌山医療センターで開催。全災害医療支援部員が出席。

- ① 近畿ブロック研修会の反省
- ② 今年度の反省
- ③ 原子力災害対応基礎研修会への課題

平成 28 年度からブロック単位の開催になる可能性が高い。技師会—被ばく医療施設技師—ブロック間の連携が必要である。また、今年度は災害医療支援部員が講師を務めたが、今後は他の技師にも講師を担当していただき、技師の知識とスキルの均てん化を計る。

- ④ 国際医療救援についてのアピール

現在本社に海外派遣要員として登録されている診療放射線技師は 9 名だが、そのうち 2000 年以降活動している者は 2 名。現在は 1 名しか派遣に出せない状況である。派遣要員の登録技師数を増やすためには、まず国際救援に興味を持っていただくことが大切。来年の学術総会において国際救援のセッションを設け、その概要説明と経験者による個別の活動報告等を発信して、会員にアピールしたい。

- ⑤ 災害時の日赤病院間での人的支援ネットワークおよびシステムの構築

現在、地震等による被災病院に対する人的支援システムが、診療放射線技師においては整備されておらず、実際東日本大震災において、被災病院への人的支援はなかった。本社—支部—病院の指揮命令システムに技師会が加わり、被災施設にあっては支援要請を出しやすく、支援側にあっては効果的な支援ができるようなシステムを構築することが望まれる。まずはモデルケースを近畿ブロックで作成し、その後全国へ広げてゆきたい。

(4) 学会発表等

中田正明

第 30 回 診療放射線技師総合学術大会 (2014 年 09 月 19 日)

委員会報告 I (災害対策委員会) 【大規模災害に支援できる技師】

「日本赤十字社放射線技師会：災害医療支援部として、医療機器の貸出を経験して」

日本集団災害医学会誌 Vol119 No2 2014 発行

事例報告「東日本大震災における被災地での X 線装置の必要性について」

駒井一洋

第 50 回日本赤十字社医学会総会 (2014 年 10 月 16 日)

演題発表「日本赤十字社と協働する日赤診療放射線技師会の原子力災害への取り組み」

平成 26 年度日本赤十字社診療放射線技師会 学術専門部事業報告

平成 25 年度より学術専門部が発足した。この経緯は、技師会活動の一環として

会員の学術および技術向上を目的とするものであります。

特に赤十字職員間の横断的教育の達成とそれによる技術、業務の均一性を図ることが重要であります。そこで、技師会としてホームページの刷新を行い、このツールを用いて技師職員の活性化に繋がることを期待いたします。そのために、現在6部会の組織編成を行いIT事業部の協力を得て、全国施設職員より登録を行いました。

部門においてはアンケート実施を行い、分析結果を発信する方向である。そして、各専門部は連絡体制の確認を行い、次年度に向けて全国施設の部員状況の把握を図った。

1. 平成26年度 学術専門部世話人会議

平成27年2月14日（土）13:00～17:00

日本赤十字社 101会議室

出席者 専門部世話人 16名

理事 5名

議事内容

- ① 登録状況の報告
- ② 各専門部名簿作成 : 各部門世話人へ配布
- ③ ホームページ活用方法 : IT理事による説明を行った
- ④ その他

専門部世話人および担当者登録内訳；担当者登録施設数 56 施設（平成27年3月1日現在）

	世話人（人）	担当者登録	
		登録数（人）	該当なし施設数
CT	4	56	0
MRI	3	53	3
放射線治療	4	35	21
乳房撮影	4	53	3
核医学	4	44	12
医療情報	3	53	3

2. 世話人および担当者登録の状況（平成27年3月1日現在）

	施設数	世話人		担当登録施設数	
		人数	割合	人数	割合
全国	95	22		56	59%
北海道	10	0	0%	6	60%
東北	6	1	5%	4	67%

関東	19	8	36%	13	68%
中部	20	4	18%	13	65%
関西	14	5	23%	9	64%
中国四国	15	3	14%	7	47%
九州	11	1	5%	4	36%

- 世話人は、関東・中部・関西の3ブロックが75%程度を占めている。
- 担当者登録は、56施設であり、中国四国および九州ブロックの登録率が低い。

以上のことより、分科会活動の活性化を図るため、分科会組織の充実と強化を目的とし、技師会HPの有効活用および登録施設数の増加を目指す。

2014 年度

第 50 回日本赤十字社医学会総会

日本赤十字社診療放射線技師会 副会長

大分赤十字病院 戸口 豊宏

平成 26 年 10 月 16 日（木）17 日（金）熊本において、第 50 回日本赤十字社医学会総会が行われました。

メインテーマは、原点を見つめ 世界へ飛翔

～赤十字の果たすべき使命～

診療放射線技師の発表では、一般口演 10 題・ポスター 24 題の発表でした。

一般口演 1 では、国内救援救護活動 I で、名古屋第二赤十字病院の当会災害医療支援部理事であります駒井様が「日本赤十字社と協働する日赤診療放射線技師会の原子力災害への取り組み」と題して発表されました。

次回医学会総会は、北見で行われる予定です。

以上簡単ですが報告いたします。



各ブロック研修会など

平成 27 年度

第 25 回 北海道ブロック研修会報告

釧路赤十字病院 工藤 武志

開催日時：平成 27 年 10 月 3 日（土）～4 日（日）

開催場所：日本赤十字社北海道支部

台風 21 号から爆弾低気圧に変わり北海道を直撃し荒れた天候の中、北海道地区会第 25 回総会並びに研修会が行われました。一部の地域の方が交通機関のマヒにより移動に苦労され参加されました事に感謝いたします。

開催場所は札幌市にある日本赤十字社北海道支部の会議室で行い、8 施設から 23 名の参加がありました。研修会の内容は、初日は会員の研究発表が 8 演題、日本赤十字社診療放射線技師会研修会の報告があり、特別講演として『日本赤十字社診療放射線技師会の新しくなった HP のご説明』を日本赤十字社診療放射線技師会 荒井一正理事から大変わかりやすく説明をして頂きました。

2 日目は「医療安全知恵の輪・造影剤の副作用に関する各施設の取り組みの状況報告」と題して各施設から発表をして貰い、また参加していない施設からデータを一貫し事務局で代わりに発表をしました。特別講演では「副作用発生時の対応素案」と題して製薬会社から講演を頂き、各施設の副作用発生時の対応などについて有意義な意見交換が出来た事がよかったですと思います。



釧路赤十字病院

研修会プログラム

平成 27 年 10 月 3 日（土）1 日目

12 : 30 受付・参加登録

13 : 00 会員研究発表

セッション 1

【座長】釧路赤十字病院 多津美 敦

小清水赤十字病院 河村 康広

1. 「当院におけるタブレットを利用した患者呼び込みシステムについて」

北見赤十字病院 垂水 昌子

2. 「マンモグラフィシステム専用品質管理ツール 1 Shot Phantom の使用経験」

旭川赤十字病院 福屋香菜子

3. 「EI による線量評価について」

北見赤十字病院 岩橋 秀樹

4. 「CT 造影剤注入用専用カテーテルの使用経験について」

伊達赤十字病院 竹内 佳輝

セッション 2

5. 「臍臓の描出について」

浦河赤十字病院 天戸 康博

6. 「手指の関節炎と超音波検査～当院の事例から動画を中心に」

釧路赤十字病院 木内 良次

7. 「バックボードの有無による画質の違いの検討」

旭川赤十字病院 近藤 悠太

8. 「耳鼻科領域におけるトモシンセシス利用についての基礎検討」

北見赤十字病院 中島 勲

15 : 10 特別講演

【座長】函館赤十字病院 川井 明彦

「日本赤十字社診療放射線技師会の新しくなった HP のご説明」

日本赤十字社診療放射線技師会 常任理事 荒井 一正

16 : 10 全国総会報告

【座長】釧路赤十字病院 木内 良次

小清水赤十字病院 河村 康広

16 : 50 北海道地区会総会

19 : 00 情報交換会

平成 27 年 10 月 4 日（日）2 日目

8 : 40 受付

9 : 00 医療安全知恵の輪・造影剤の副作用に関する各施設の取り組みの状況報告

【座長】釧路赤十字病院 熊谷 敬広

10 : 40 特別講演

【座長】釧路赤十字病院 工藤 武志

「副作用発生時の対応素案」

第一三共株式会社 田口 聡

12 : 00 閉会



荒井 理事



第一三共 田口先生



集合写真

第4回 東北ブロック研修会報告

石巻赤十字病院 及川 順一

開催日時：平成27年9月26日（土）

開催場所：仙台市戦災復興記念館

平成27年9月26日（土）13時から、仙台市戦災復興記念館において平成27年度日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック研修会が開催されました。東北5県の6施設から45名の参加がありました。

今回は、日本赤十字社診療放射線技師会の竹安理事より日赤技師会のホームページの活用についてご講演していただき、一般研究発表5題と共同テーマ発表「画像データ管理」を行いました。

研修会後の施設代表者会議で、次年度は平成28年9月24日に石巻赤十字病院で開催することがきまりました

研修会プログラム

13：35 特別講演

「ホームページの活用について」

【座長】 仙台赤十字病院 安彦 茂

日本赤十字社診療放射線技師会 常任理事 竹安 直行

14：35 一般演題発表

1. 「¹²³I-MIBG 多施設間での H/M、ROI カウントおよび ROI 内ピクセル数の比較」

【座長】 石巻赤十字病院 山内 佑一
八戸赤十字病院 對馬 和也

2. 「整形外科の手術中透視の水晶の体被ばく線量の測定」

仙台赤十字病院 鈴木 陽

3. 「当院の RIS・PACS システムで経験したトラブルについて」

福島赤十字病院 菅野 徹

4. 「大規模災害訓練に参加して」

仙台赤十字病院 笹 陽子

5. 「CT 装置による撮影条件の検討」

石巻赤十字病院 高橋 和也

15：50 共同テーマ発表

「画像データの管理」

【座長】 石巻赤十字病院 鎌田 賢治

【演者】 八戸赤十字病院 大澤 哲平

秋田赤十字病院 大隅 康之

盛岡赤十字病院 厚谷 祥一

仙台赤十字病院 安彦 茂

福島赤十字病院 佐藤 竜馬

石巻赤十字病院 安住 渉

17：00 施設代表者会

17：15 集合写真撮影・閉



第 28 回 東部ブロック研修会報告

さいたま赤十字病院 尾方 智幸

開催日時：平成 27 年 11 月 7 日（土）～8 日（日）

開催場所：日本赤十字社神奈川県支部

東部ブロック研修会が平成 27 年 11 月 7 日（土）～8 日（日）横浜市立みなと赤十字病院担当により日本赤十字社神奈川県支部 6F 研修室において開催された。17 施設から 82 名の参加、大会長・会長 挨拶の他、教育講演 2 題、特別講演 1 題、研究発表 8 演題等多彩な内容（詳細はプログラム参照）であった。なかでも、横浜市立みなと赤十字病院 救急部中山副部長の教育講演では参加者を巻き込んだ参加型講演であり楽しく学ぶことができた。また、特別講演では神奈川県ライトセンター支援課相談青山しのぶ係長による視覚障害についての講演で、我々医療従事者でも理解できていなかったお話を聞くことができ、今後の勤務における貴重な糧となった。

情報交換会では当番施設の皆さんに大いに盛り上げていただき、神奈川の良き「お・も・て・な・し」を実感することができた。今回担当いただいた宮沢課長をはじめスタッフの皆様へ感謝いたします。お疲れ様でした。

施設代表者会議議事

- ・当番病院について
- ・各施設代表者氏名等の連絡方法について
- ・現当直体制と体制移行による問題点
- ・各専門部会への協力
- ・次期選挙管理委員の立候補について





研修会プログラム

11月7日(土) 1日目

12:00 受付開始

13:00 開会式

大会長挨拶

横浜市立みなと赤十字病院 宮澤 明

事務部長挨拶

横浜市立みなと赤十字病院 小山田茂夫

13:10 日本赤十字社診療放射線技師会 会長挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会 会長 清水 文孝

13:20 教育講演

【座長】相模原赤十字病院 大澤耕一郎

「がん診療における PET と放射線治療のはなし」

横浜市立みなと赤十字病院 放射線診断部 部長 荻 成行

14:10 休憩

14:30 一般演題

【座長】横浜市立みなと赤十字病院 落石 祐一

1. 「低管電圧を用いた冠動脈 CT の検討」

足利赤十字病院 桐山 岳

2. 「急変時対応と ICLS 受講に関する調査」

横浜市立みなと赤十字病院 山本 陽介

3. 「挿入デバイス確認画像の超低線量撮影」

大森赤十字病院 水石 岳志

4. 「kv イメージを用いた軟部組織の自動位置照合方法の開発」

武蔵野赤十字病院 古屋 裕輝

15:10 休憩

15 : 30 日本赤十字社診療放射線技師会講演

【座長】横浜市立みなと赤十字病院 川上真希子

「ホームページの活用について」

日本赤十字社放射線技師会 常任理事 竹安 直行

16 : 20 休憩・注意事項・その他

16 : 30 施設代表者会議

【司会】横浜市立みなと赤十字病院 宮澤 明

【議長】東部ブロック理事 尾形 智幸

17 : 30 情報交換会 中華街 金香楼

11月8日(日)2日

9 : 00 教育講演

【座長】秦野赤十字病院 湯山 浩司

「救急外来での画像検査」～外傷診療を中心に～

横浜市立みなと赤十字病院 救急部 副部長 災害担当 中山 祐介

9 : 45 休憩

9 : 55 特別講演

【座長】横浜市立みなと赤十字病院 宮澤 明

「ライトセンターとは」

神奈川県ライトセンター 支援課 相談係長 青山しのぶ

10 : 40 休憩

10 : 50 一般演題Ⅱ

【座長】横浜市立みなと赤十字病院 青木 敏博

1. 「当院における救急MRI検査の利用状況」

那須赤十字病院 天澤 麻紀

2. 「長尺撮影における歪みの検討」

さいたま赤十字病院 田中 里奈

3. 「X線TV装置用プロテクターの放射線遮蔽効果」

大森赤十字病院 東香 奈江

4. 「非造影T1協調像における小脳歯状核の高信号化ガドリニウム造影剤との関連」

深谷赤十字病院 登坂 崇史

11 : 30 閉会式 次回当番病院挨拶

第6回 中部ブロック業務研修会報告

開催日時：平成 27 年 9 月 5 日（土）～6 日（日）

開催場所：浜松赤十字病院



浜松赤十字病院の外観

秋雨前線の影響で雨の続く中、第 6 回中部ブロック業務研修会を平成 27 年 9 月 5 日（土）・6 日（日）の両日に開催しました。雨降りでの開催を覚悟しておりましたが、その合間を縫った晴天での開催ができました。

開催場所は当院の研修ホールで行ない、15 施設から 76 名の参加がありました。

研修会内容は、テーマを「地域連携の充実」と設定し、放射線部門の役割や関わり方について 7 施設・8 名の演者の方に発表をして頂きました。その後ディスカッションを行い、各施設での現状や問題点について話し合いました。また、メーカー講師をよんでテーマに沿った地域連携システムや地域医療ネットワークについて講演をして頂き、その日の終わりは部門ごとに分かれてのミーティングをしました。

2 日目には、会員発表 7 題と本部講演として「日本赤十字社診療放射線技師会の新しくなった HP のご説明」を本部事務局の荒井様が分かりやすく説明して下さいました。その後、メーカー講師による X 線線量情報の管理システムについて、製品紹介を交えながら説明して頂き、閉会となりました。



当番病院挨拶



ディスカッション風景

研修会プログラム

9月5日(土) 1日目

13:00 当番病院挨拶

浜松赤十字病院 放射線画像診断課 課長 佐々木 昌俊

13:05 日本赤十字社診療放射線技師会 会長挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会 会長 清水 文孝

13:15 浜松赤十字病院院長挨拶

浜松赤十字病院 院長 奥田 康一

13:25 メーカー講演

【座長】浜松赤十字病院 村松 真也

「C@RNA Connect を利用した、地域連携システム」

富士フイルムメディカル株式会社 IT ソリューション事業本部事業推進部 青柳 正宏

「地域医療ネットワーク Human Bridge ご紹介」

富士通株式会社 ヘルスケアビジネス推進統括部 第二ヘルスケアビジネス推進部マネージャー 星 裕之

14:40 テーマ「地域連携の充実」について放射線部門の役割・関わり方

【現状の問題点と今後の展望を考える】

※放射線科または各部門の視点から発表をしていただき、発表終了後にディスカッションを行います。

【座長】浜松赤十字病院 坪井 孝達

1. 「当院放射線科の地域医療との係わり～主に RI 検査室において～」

静岡赤十字病院 山本 智久

2. 「当院放射線部における地域連携の現状(MRI 部門について)」

名古屋第一赤十字病院 鈴木 厚次

3. 「当院 MR 部門の地域連携～現状と問題点～」

浜松赤十字病院 猿田 忠司

4. 「当院の地域医療連携～放射線科の取り組み」

名古屋第二赤十字病院 小坂 健太

5. 「当院における地域連携と放射線科との係わり」

岐阜赤十字病院 竹中 明美

6. 「福井赤十字病院放射線科部と地域連携との関わり」

福井赤十字病院 西村 英明

7. 「地域消防との連携による放射線災害に対する取り組みについて」

伊勢赤十字病院 岡田 和正

8. 「地域医療機関における一般撮影入射表面線量の調査および最適化について」

伊勢赤十字病院 柴原 卓彦

16:30 ブロック代表者会議・専門部会ミーティング

18:30 情報交換会

9月6日(日)2日目

9:00 会員発表

- | | |
|---|--------------------|
| 1. 「CT透視下 IVR 時の空間線量分布の測定」 | 【座長】 浜松赤十字病院 水野 洋行 |
| 2. 「頭部 MRI におけるスライス断面の統一化」 | 伊勢赤十字病院 大形 鮎美 |
| 3. 「Exac Trac システムにおける画質評価」 | 伊勢赤十字病院 松月 俊晴 |
| 4. 「当院の ^{123}I における TEW の基礎的検討」 | 伊勢赤十字病院 伊藤伸太郎 |
| 5. 「マンモグラフィにおける追加撮影システム導入の経緯について」 | 伊勢赤十字病院 森嶋 毅行 |
| 6. 「当院における可搬媒体(PDI)の取り扱いの現状と今後について」 | 伊勢赤十字病院 後藤 咲月 |
| 7. 「日本赤十字社診療放射線技師会学術専門部の紹介」 | 伊勢赤十字病院 幕谷 幸弘 |
| | 浜松赤十字病院 坪井 孝達 |

10:00 本部講演

「日本赤十字社診療放射線技師会の新しくなった HP のご説明」

武蔵野赤十字病院 荒井 一正

11:10 メーカー講演

【座長】 浜松赤十字病院 猿田 忠司

「X線線量情報の一元管理システム～Radimetrics～の紹介」

日本メドラッド株式会社ラジオロジー事業部医療機器アプリケーションスペシャリスト 上村しづ香

12:10 閉会挨拶



清水会長挨拶



奥田院長挨拶



閉会後の集合写真

第24回 近畿ブロック業務研修会報告

近畿ブロック地域理事 長浜赤十字病院 奥出隆夫

開催日時：平成28年1月30日（土）～31日（日）

開催場所：姫路赤十字病院及び姫路キャッスルグランヴィリオホテル

日本で最初にユネスコの世界遺産に登録され、昨年3月に5年半に渡る改修工事を終えたたくさんの観光客が訪れる国宝姫路城。今年度の近畿ブロック研修会はこの地、姫路赤十字病院にて開催され13施設から91名の参加がありました。



姫路城



姫路赤十字病院

今年の開催テーマは「各施設間での情報の共有化」です。

1日目、講演は全国他の各ブロックと同様に日本赤十字診療放射線技師会の新ホームページについて、日本赤十字診療放射線技師会広報担当の荒井理事より分かりやすい説明があり、その後姫路赤十字病院放射線科内の施設見学がありました。



荒井理事



施設見学

グループワークでは、昨年のブロック研修に引き続き、部門別ミーティングが開催されました。昨年の検討部門の中から引き続き「一般撮影部門」「CT部門」と、今年は新たに「乳房撮影部門」「医用画像情報部門」が加わった4部門にて、各施設の担当者より技術的課題や診療運用問題点など活発な討議が行われ、各施設の情報を共有する事ができました。部門別ミーティングに並行して、施設代表者会議も開催され、各施設での問題点の協議が持たれました。



一般撮影部門



CT部門



医用画像情報部門



乳房撮影部門



施設代表者会議

夕方からは会場を病院会議室からホテルに移し、情報交換会が開催されました。各テーブルとも施設の垣根を超えさらなる意見の交換が持たれました。



2日目は、会員研究発表が若手を中心に8演題ありました。その後、参加型の研修会を目指し「CT, MRI 検査時の造影剤の血管内投与後の抜針・止血の行為について」として、姫路赤十字病院看護部の協力にて、静脈路抜針に関する基本知識のレクチャーと抜針の実習が行われました。



抜針実習

研修会プログラム

1月30日(土) 1日目

会場：姫路赤十字病院

12:30 受付開 (管理棟 5F 大会議室)

13:00 開会式

13:10 「日赤放射線技師会ホームページの活用について」

日本赤十字社診療放射線技師会 常任理事 荒井 一正

14:00 施設見学 (病院内の放射線科部門の説明)

15:15 施設代表者会議 (管理棟 5F 第2・第3 会議室)

部門別ミーティング (管理棟 5F 大会議室)

【題目】

1. 一般撮影部門
2. CT 部門
3. 医療情報部門
4. 乳房撮影部門 (乳房撮影室)

17:00 姫路キャッスルグランヴィリオホテルへ移動(シャトルバス 30 分程度)

18:30 情報交換会 (姫路キャッスルグランヴィリオホテル)

1月31日(日) 2日目

会場：姫路キャッスルグランヴィリオホテル

8:30 受付

9:00 会員研究発表

1. 「FPD を用いた胸部X線撮影の適切な撮影線量の検討」

神戸赤十字病院 福嶋 英人

2. 「患者説明用の表面被ばく線量の再評価について」

大津赤十字病院 藤川 沙凡

3. 「CR と FPD における解像特性の比較検討」

京都第二赤十字病院 渡利 信也

4. 「乳房撮影装置更新に伴う初期検討」

長浜赤十字病院 寺村 理沙

5. 「DMQC ファントムの CNR が変化する要因」

大阪赤十字病院 皆吉 福子

6. 「CT 装置における新型検出器の性能評価」

大津赤十字病院 蓮本 亨佑

7. 「MRI 撮影における機能性肌着の成分と発熱の関係」

神戸赤十字病院 小川 宗久

8. 「当院における診断用X線防護衣の管理について」

姫路赤十字病院 内海 武彦

10 : 40 「CT、MRI 検査時の造影剤の血管内投与、投与後の抜針・止血の行為について」の講演・実習

11 : 30 ランチョンセミナー（株式会社日立メディコ）

12 : 10 閉会式

次期開催担当病院挨拶

大阪赤十字病院 技師長 福田 浩士

第5回 中四国ブロック研修会報告

鳥取赤十字病院 入川 富夫

開催日時：平成27年11月28日（土）～29日（日） 開催場所：鳥取赤十字病院

本年度で5回目数える標記研修会ですが、初となる2日間研修を企画いたしました。多くの施設のご協力を得て下記プログラムにありますように会員レクチャー8演題、会長講演、教育講演、そして、竹安理事をお迎えして「赤十字技師会ホームページの活用」と題して講演頂きました。研修会2日前に寒波が到来して鳥取市内も雪が降り、瀬戸大橋の不通や飛行機の発着を心配しておりましたが、当日は気温も上がり風も収まり中四国会員、本部理事を含め39名、当院の技師12名を加え総勢51名の出席でした。



(開会挨拶)



(会場風景)



知らない多くの機能があることを知り、有効活用すれば会員にとって大きな武器になることが判明しました。今後、聴き得た情報を施設に帰り広めて頂けると信じております。会員レクチャーでは、MR、CT、消化管、一般と1レクチャー30分枠が足りない内容で、質疑応答でも関心の高さが窺えま



当院は、本年創立100周年を迎え祝賀会や記念事業を開催した記念すべき年に当たります。また、平成30年5月のグランドオープンに向け、新棟の建築中でもあります。よって、昭和38年築のレトロ感満載の研修室での開催となり、工事の関係で暖房が利かない等、悪条件の中での開催となりました。暖房はファンヒーター3台を使用してしのぐことができました。このような中、竹安理事の「ホームページの活用」では、「急性腹症の画像診断」と題して講演頂きました。14症例を高山植物のスライドを挿みながら詳しく説明して頂きました。講演を聴いていて思ったことは、他の検査情報との総合評価から、疑われる病名の確固たるサインをみつけられた時以外は軽はずみにコメントすべきでないということでした。われわれは医師では無いので診断することはできません。し

かし、実質的に疑われる疾患部を強調表示したり画像再構成で医師が診断しやすい画像を提供したりと、読影できなければできない業務を日々行っています。これは、正しく読影の補助ではないでしょうか。小林先生の講演も予定を大幅に超過して情報交換会が30分も遅れてしまいました。

19時より、待ちに待った情報交換会が始まりました。季節がら鳥取の味覚、松葉ガニのコース料理を準備いたしました。予算の関係で徴収金額は多くなりましたが、せっかくの機会なので研修会出席者は全員参加して頂きました。まずは食べることに集中、カニ料理は両手が塞がりアルコールの消費がいつもより少なく、予算の範囲内に収まりホット一息。時間も忘れ気が付けば早21時30分。カニのお出しが利いたお鍋にご飯と溶き卵を投入、締めのおじやの完成です。

そのお味は、、、、です。その後は2次会、3次会とお宿の門限を少し過ぎた深夜1時過ぎに散会。お疲れさまでした。



2日目は、8時30分から会長講演で幕を開けました。皆、不思議と元気な姿で会場入り。清水会長講演の中で、①学術総会の地方大会開催についての模索、②日本赤十字社医学会総会での1施設1演題の登録、③職員交換研修制度創設の3点が興味を引いた。特に職員交換研修制度は私自身が組合活動をしていたころ、日赤施設間研修制度の創設を訴えてきた経緯があり、とても興味深かった。現に、平成26年5月より伊勢赤十字、名古屋第二で始まっているとのこと。また、平成28年度には制度を策定し、本格的に始動するようです。これが全国規模で開始されれば相乗効果で施設自体がより良い環境になるような気がする。伝統もよいが新たな風も期待したい。

その後12時過ぎまで、会員レクチャーが5演題続き、各施設のスキルの高さが窺えた。次回（平成28年度）は広島での開催を決定し閉会となりました。本部役員の皆様、遠路遥々お越し頂きありがとうございました。



研修会プログラム
11月28日(土)1日目

12:30 受付開始

13:00 施設見学

13:30 施設代表者会議

14:00 開会

研修会テーマ【読影の補助】

【司会】鳥取赤十字病院 池原 準

開会挨拶

鳥取赤十字病院 入川 富夫

14:10 基調講演

【座長】松江赤十字病院 磯田 康範

『日赤技師会ホームページの活用』

日本赤十字社診療放射線技師会 常任理事 竹安 直行

15:00 会員レクチャー 読影の補助 (part1)

【座長】鳥取赤十字病院 米田 猛

1. 「頭頸部領域の画像診断の補助」

岡山赤十字病院 帆足 有布

2. 「救急撮影時の展開、整形外科領域(大腿骨頸部・股関節etc.)」

松山赤十字病院 大西 寛典

3. 「読影補助レポート(消化管)」

広島赤十字・原爆病院 田中 久喜

16:40 教育講演

【座長】鳥取赤十字病院 入川 富夫

『急性腹症の画像診断』

鳥取赤十字病院 放射線科部長 小林 正美

18:20 情報交換

11月29日(日)2日目

- 8:30 特別講演
- 【司会】鳥取赤十字病院 磯見 正美
【座長】高松赤十字病院 安部 一成
- 『日本赤十字社診療放射線技師会の活動を未来に繋ぐ』
日本赤十字放射線技師会 会長 清水 文孝
- 9:30 会員レクチャー 読影の補助 (part2)
- 【座長】鳥取赤十字病院 山根 晴一
1. 「胸部領域:CT」
松江赤十字病院 山城 圭進
2. 「救急患者の読影」
松江赤十字病院 石田 知大
- 10:30 会員レクチャー 読影の補助 (part3)
- 【座長】大分赤十字病院 戸口 豊宏
3. 「救急患者のMRI検査の現状と頭部領域のMRI検査」
高松赤十字病院 石井 寛人
4. 「急性腹症(虫垂炎)」
鳥取赤十字病院 澤田 徹也
5. 「MR検査における稀な症例」
鳥取赤十字病院 池原 準
- 12:00 閉会挨拶
鳥取赤十字病院 入川 富夫

第16回九州ブロック研修会報告

熊本赤十字病院 村上 博司

開催日時：平成27年9月5日（土）～6日（日）

開催場所：熊本赤十字病院

第16回九州ブロック研修会を平成27年9月5日から6日の2日間にかけて開催しました。今回は熊本赤十字病院の担当で、開催場所は当院の研修ホールで行い、参加人数は11施設から49名の参加がありました。

初日は、特別講演1「救急患者へのアプローチ」～診療放射線技師の役割～を熊本赤十字病院 第二救急科部長 桑原謙先生に、又、初めての試みといたしまして「救急医療における放射線業務について」のテーマでシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、5施設の代表の方々と救急医療での現状や取り組み、勤務体制など活発な話し合いが行われました。その後、当院施設（画像診断治療センター、救命救急センター）、ドクターヘリを見学しました。

2日目は、一般演題としまして6演題、特別講演2「日赤技師会ホームページの活用について」を日本赤十字社診療放射線技師会 竹安直行理事に大変分かりやすく説明していただきました。2日間の研修でしたが救急での業務など各施設との意見交換をする事ができ大変有意義な研修会であったと思います。



一二三院長挨拶



竹安理事講演



シンポジウム

研修会プログラム

9月5日(土) 1日目

12:45 受付開始

13:15 開会の辞

熊本赤十字病院 放射線科 技師長 村上 直治

13:20 院長挨拶

熊本赤十字病院 院長 一二三 倫郎

13:25 特別講演 1

【座長】熊本赤十字病院 村上 直治

「救急患者へのアプローチ」 ～診療放射線技師の役割～

熊本赤十字病院 第二救急科部長 桑原 謙

14:55 シンポジウム

「救急医療における放射線業務について」

【座長】熊本赤十字病院 西小野昭人

シンポジスト

福岡赤十字病院 八波 誠一

大分赤十字病院 榎野 恭治

唐津赤十字病院 平田 一英

長崎原爆病院 近藤 文宏

熊本赤十字病院 藤井 竜一

16:15 ブロック代表者会議 (503, 504 研修室)

施設紹介「熊本赤十字病院の紹介」

熊本赤十字病院 永田 圭吾

16:40 施設見学(ドクターヘリ・ヘリポート 16:50～)

19:00 懇親会

9月6日(日) 2日目

9:30 2日目開会挨拶

9:40 一般演題発表

【座長】熊本赤十字病院 矢野 祐二

戸上 諒

1. 「長崎原爆諫早病院放射線科の開院 10 年の推移と考察」

日本赤十字社長崎原爆諫早病院 大町 繁美

2. 「当院放射線科部内での BLS の取り組み」

福岡赤十字病院 平山 卓巳

3. 「マンモグラフィ・トモシンセシスの使用経験」

熊本赤十字病院 中村 沙織

4. 「バイプレーン血管造影装置距離計測におけるアイソセンターキャリブレーションの有用性」

大分赤十字病院 凍田 淳平

5. 「シーメンス 3T MRI の使用経験」

熊本赤十字病院 黒木 陽平

6. 「頭部 MRA における内頸動脈屈曲部アーチファクト低減の試み」

福岡赤十字病院 木船 智司

10:50 休憩

11:00 特別講演 2

【座長】熊本赤十字病院 増田 弘明

「日赤技師会ホームページの活用について」

日本赤十字社診療放射線技師会 常任理事 竹安 直行

12:00 閉会の辞 次回担当施設



ドクターへ
りと記念撮
影

閉会后集合
写真



平成 27 年度 専門部報告

赤十字職員間の横断的情報共有の達成とそれによる技術、業務の均一性を図ることを目的に活動を行ってきた。専門部登録率は 65%としているが、各専門部の連絡体制を強固にするために、IT 事業部と協力を行った。組織率の向上と専門部活性を更に目指すこととし、ブロック活動企画など SNS にてあらゆる情報を発信した。

1. 平成 27 年度 専門部世話人会議

平成 28 年 2 月 27 日（土）13：00～17：00

日本赤十字社 101 会議室

出席者 専門部世話人 17 名

理事 8 名

議事内容

- ① 登録状況の報告
- ② 各専門部名簿作成 : 各部門世話人へ配布
- ③ ホームページ活用方法 : IT 理事による説明を行った
- ④ その他

2. 専門部概況（平成 27 年度平成 28 年 3 月 17 日現在）

2-1 専門部世話人

専門部	世話人 (人)	施設
CT	4	成田（東部）・京都第二（近畿）・大阪（近畿）・松山（中四）
MRI	3	八戸（東北）・小川（東部）・那須（東部）
放射線治療	4	足利（東部）・医療センタ（東部）・長野（中部）・松山（中四）
乳房撮影	4	さいたま（東部）・大森（東部）・長浜（近畿）・京都第二（近畿）
核医学	4	さいたま（東部）・前橋（東部）・浜松（中部）・神戸（近畿）
医療情報	3	福井（中部）・松江（中四）・熊本（九州）

* 世話人は 4 名または 3 名。

2-2 専門部世話人のブロック比率

	施設数		世話人数		
	95	比率 (%)	22	比率 (%)	
全国					
北海道	10	11	0	0	少
東北	6	6	1	5	
東部	19	20	8	36	多
中部	20	21	4	18	
近畿	14	15	5	23	多
中四国	15	16	3	14	
九州	11	12	1	5	少

* 世話人のブロック比率として北海道および九州ブロックが低い。

3-1 専門部施設担当登録者

	担当者登録施設		該当無し率 (%) (該当無し/回答施設)	
	登録施設数	該当なし施設数		
CT	62	0	0	
MRI	59	3	4.8	
放射線治療	40	21	34.4	多
乳房撮影	61	2	3.2	
核医学	49	12	19.7	多
医療情報	58	3	4.9	

* 「該当無し率」は回答のあった施設を母数とした（登録する専門部の該当が無い可能性があるため）

* 放射線治療および核医学は該当施設が少ない（多）。

3-2 専門部施設担当登録者のブロック別登録状況 (CT)

	施設数	施設担当者	回答率 (%)
全国	95	62	65
北海道	10	7	70
東北	6	4	67
東部	19	15	79
中部	20	15	75
近畿	14	10	71
中四国	15	7	47
九州	11	4	36

* 「該当者なし」が0%のCTを元にブロック別の回答率を示した.

* X線撮影装置のみを有している施設は登録が無い(回答無し)可能性が高いと考えられる.

* 西日本の登録率が低い.

【 CT 】

世話人：河本勲則（京二）、加賀久善（大阪）、川嶋宏樹、小林弘幸（和歌山）、笹田勇造（成田）

1. CT装置や検査方法についてのTopixをHPにて掲載し、情報提供の計画を継続していく.
2. 施設紹介につきましては、原稿が集まらず、掲載できなかった。HPに質問や業務における疑問点などの質問も寄せられなかった.
3. 昨年末よりCT業務に関するアンケート調査をお願いしていますが、3月末で集計し、結果報告させていただきます.
4. 「CTの被ばく低減への工夫」について、電子会誌へ投稿.
5. 総会にて「専門部レクチャー（乳がん）」で発表.

【 MRI 】

世話人：大澤哲平（八戸）、宇田暢樹（小川）、佐藤統幸（大田原）、揚出泰弘（秋田）

1. アンケート分析結果を技師会HPにUPした。また、メーリングリストにて部会員に配布した。
2. アンケート結果から想定されるMRI対応ペースメーカーへの推奨対策の検討を行い、仮となるものを作成した。現在は部会員にメーリングリストにて配布しており、意見やアドバイスなどを集めている状況。
3. 部会員の活動をうながすため、メーリングリストを用いて、各施設のMRI設置状況やMRIについての疑問点を聞く調査を開始した。

【 治療 】

世話人：小山登美夫（長野）、上田真吾（松山）、簾谷和男（足利）、丸山大樹（医療センター）

1. 近隣赤十字病院との施設間交流および、勉強会などでの情報交換活動
2. HP を利用した学会アンケートの発信および施設間交流などの活動報告
3. 専門部より HP を利用した情報発信をおこない、HP 利用促進を図った。

【 核医学 】

世話人：小池克美（さいたま）、坪井孝達（浜松）、星野洋満（前橋）、岸本義幸（神戸）

1. 各施設の装置状況を含め装置保守点検に関するアンケートを作成した。
2. 導入機器データベースの更新
3. 機器ごとのワークフローを共有化
4. 関係書類のフォーマットの共有化

【 医療情報 】

世話人：加藤秀之（松江）、西村英明（福井）、西小野昭人（熊本）

1. メーリングリストの整備
2. SNS の施設活用についての検討
3. メーリングリストでのディスカッション

【 乳房画像 】

世話人：尾形智幸（さいたま）、西関 剛（長浜）、梶迫絵美（京二）、出井愛子（大森）

1. 乳がん検診精度管理中央機構 HP に掲載されている赤十字病院および検診施設の一覧をまとめた。
2. ブロック研修会（近畿）へ参加を行い、HP にて報告した。
3. 学術総会にて「乳がん」について座長参加した。

平成 27 年度 災害医療支援部活動報告

【国内災害】

1. 被災病院への人的支援システム

昨年度の災害医療支援部会にて、標記事項の構築を目指すことが決定された。これは地震等による被災病院に対する技師の人的支援を漏れなく速やかに実行することを目的とするものであり、モデルケースとしてまず近畿ブロックでの構築を試みる予定であったが、残念ながらまったく進んでいない。その原因は本社・技師会を取り巻く状況の変化と、システム構築を目指すための具体的方策の欠如といえる。これらのことについて、1月30日に開催された近畿ブロック施設代表者会議にて、災害医療支援部理事が事情説明を行った。

2. 日本赤十字社災害医療コーディネートチームへの日赤技師会の参加要請

大規模災害時に日赤本社には災害医療コーディネートチーム（災害対策本部）が設置される。

1. の人的支援システムを実行するために、技師会がコーディネートチームに加わることが有用という判断から、本社事業局 救護・福祉部 救護課に技師会参加の可能性について打診しているところである。

【原子力災害】

1. 平成 27 年度 第 1 回日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会参加（2015. 09. 06）

平成 27 年度 第 2 回日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会参加（2015. 11. 06）

研修会内容は前年度とほぼ同じ。来年度以降のブロック単位での開催を視野に入れ、災害医療支部員以外の放射線対応支援要員が講師を担当した。また今年度から参加者には修了証が与えられた。

2. 第 1 回日本赤十字社緊急被ばく医療アドバイザー会議出席（2015. 07. 22～23）

第 2 回日本赤十字社緊急被ばく医療アドバイザー会議出席（2015. 12. 03～04）

緊急被ばく医療アドバイザーとは、原子力災害において放射線下での救援活動を安全かつ適切に行うために被災地支部および本社災害対策本部に配置される、日赤の被ばく医療施設に所属する医師と診療放射線技師。現在 12 施設から各 12 名の医師・技師が任命されている。医師は放射線対応専門要員、技師は放射線対応支援要員と呼ばれる。

（主な協議内容）

1. 活動従事者の安全を確保するための運用
2. 施設避難
3. 国際的支援
4. 被災地住民に対するスクリーニング支援
5. 原子力災害における救護活動基準等の修正
6. 平成 28 年度原子力災害対応基礎研修会の開催について

【国際救援】

特になし。

【災害医療支援部会】

3月5日（土）に神戸赤十字病院にて開催。

出席者は磯田康範副会長、浅妻厚学術理事他、全災害医療支援部員が出席。今年度の反省と来年度の活動方針が協議された。

以上

2015 年度

第 51 回日本赤十字社医学会総会

北見赤十字病院 医療技術部 診療放射線科
診療放射線科技師長 相澤 幹也

平成 27 年 10 月 15 日（木）～16 日（金）北見市において、第 51 回日本赤十字社医学会総会が開催されました。全国から約 1,500 名の参加がありました。

メインテーマは、昨年（熊本）が記念すべき第 50 回目の総会でしたので、今回は、第 100 回目に向けて新たな一歩を踏み出す機会と位置付け、『つなげよう赤十字の温故知新～オホーツクからの新たな一歩～』としました。

診療放射線技師の発表は、一般口頭発表で、『日本赤十字社診療放射線技師会の全国赤十字病院の業務実績調査と有用性』と題して、日本赤十字社診療放射線技師会常任理事であります武蔵野赤十字病院放射線科部荒井一正様の発表を含め 14 題、ポスター発表では 13 題の合計 27 演題がありました。

前回の医学会総会における優秀演題表彰が総会の席上で行われました。優秀演題は 9 題で、その中の 1 題に、伊勢赤十字病院診療放射線技師中野和彦様の演題：『診療放射線技師による講習普及事業への参加』が選ばれ表彰されました。

次回医学会総会は、足利赤十字病院が担当し、平成 28 年 10 月 20 日（木）～21 日（金）宇都宮市で開催される予定です。

以上、簡単ですが報告致します。



ネパール地震救援活動報告
名古屋第二赤十字病院 医療技術部 放射線科 堀部 良美

1. はじめに

ネパールの首都カトマンズの北西約 77 キロメートルを震源として 2015 年 4 月 25 日の現地時間 11 時 56 分、マグニチュード 7.8 の地震が発生しました。また、その後の 5 月 12 日にも、カトマンズを挟んだ東側でマグニチュード 7.3 の地震が発生しました。

死者数は 8856 人、全壊または半壊した家屋は合計で約 80 万戸に上ると報告されています（7 月 14 日現在、国際赤十字・赤新月社連盟 発表）。

日本赤十字社では調査職員 1 人を 4 月 25 日の地震発生当日、医師・看護師ら 4 人を翌 4 月 26 日にネパールに派遣し、国際赤十字・赤新月社がネパール政府から医療支援活動を依頼されたシンデュルパルチョーク郡メラムチ村（カトマンズから北東へ約 29 キロメートル。車で約 2 時間半の距離）で現地調査と医療活動を開始しました。さらに、日赤の保健医療チーム（緊急対応ユニット：ERU）第 1 班 14 人が 4 月 30 日、現地に向けて出発し、5 月 1 日から本格的に診療活動を開始しました。私は ERU 第一班の一員として現地で約 60 日間活動を行いました。

2. ERU(Emergency Response Unit)とは

日本赤十字社では緊急事態と大規模災害発生に備え、緊急出動が可能な資機材とこれらを使って医療活動ができる訓練を受けた専門家チームが整備されています。このチームと資機材を併せて ERU と呼びます。ERU は発電機や浄水器、診療所となるテントだけでなく、チームが生活する住居、テーブル、椅子など緊急救援に必要な機材がすべてセットになっています。ERU 資機材は災害発生時に被災地へ届けられるように日本国内（熊本）とドバイに配備されています。

ERU チームの人員としてはチームリーダーをはじめ、医師 2 人、看護師が 3～6 人、機材を整備する技術要員が 2 人、資金管理や記録などを担当する管理スタッフが 2 人と 10 人を超える体制になります。派遣されるためには日本赤十字社が指定する研修を受けて派遣要員として登録される必要があります。

3. 活動地

今回の活動地は首都カトマンズから北東に 29 キロ離れたシンデュルパルチョーク郡メラムチ村。震源地に近く被害が特に大きかった地域です。カトマンズからメラムチ村までは車で 2 時間半、活動地に近づくほど道路、建物の損壊や落石が多くみられるようになりました。メラムチ村周辺では住宅の約 9 割が損壊、多くの住民は壊れた家の隣に家族毎にテントやビニールシートを張るなどして避難生活を送っていました。

日本赤十字社が活動した診療所はこの地域唯一の診療所で医師 2 人を含む医療スタッフ 名で運営されていました。地震直後には 3 日間で 1000 人以上の患者が運び込まれるなど現地スタッフの対応能力を明らかに超えた状態で、私たちが到着した当初も落石や家屋の倒壊で外傷を負った患者が診療所からあふれ、家を失った人々が診療所前の広場に簡易のテントを張って生活をしていました。

4. 現地での活動①

本格的に現地での活動を開始したのは5月1日。診療所のももとの体制を維持しつつ、日本人医師の技術を生かすため、初期診察は現地の医療者が行いました。そのうえで治療や処置が必要だと判断された患者を ERU チームが担当していました。

現地診療所にはもともと X 線撮影室が備わっていましたが、教育を受けた技師がいるわけではなく、地震後は患者数の増加により対応が困難だったこともあり、使われていない状態でした。今回の ERU チームでは Canon 社製の X 線撮影装置 CXDI-50D を持ち込んでいましたので、この装置を5月2日に診療所の X 線撮影室に設置に撮影を開始しました。

この時点では地震から1週間ほど経過していましたが、現地が山岳地帯であることもあり始めて診察を受け骨折が判明するということが多くありました。X 線装置が稼働し始めてから数日はほとんど休みなく患者の撮影を行っていました。普段救急外来働いていても骨折は目にしますが、ここまで多くの骨折を見ることは初めてでした。しかも多くの人は手や足に傷を負っているにも関わらず病院まで歩いてきていました、どうしても歩けないというような重傷者が家族に抱えられてくることもありました。

日本ではけがをしたらすぐに診察を受けるのが当たり前、遅くとも翌日には医師の診察を受け、処置を受けるのが普通です。しかし今回活動した地域はもともと医療過疎でここまでくるのも困難という人も多くいます。さらに地震により道路が崩壊していたり、けが人がいても診療所まで付き添う家族がいなくなってしまうなど様々な事情により地震から二週間がたって初めて診察をうけ、骨折の診断をうけるという人もいました。

当初は一日に20人ほどの撮影を行っていました。一番困ったのは撮影時の言葉です。ただ単に座ってほしい、手を置いてほしいということさえ伝えるのは大変でした。さらに現地の人々は X 線撮影が初めてという人も多く撮影のために私が部屋をでるとついてきてしまったり、逆に家族が中に付き添おうとしたということもありました。このころはチーム内に通訳は1人しかおらず、診療や処置にも通訳は欠かせないため。通訳の取り合いのような状況でした。数日後カトマンズから活動を手伝いたいという通訳スタッフが到着、それからは通訳助けてもらいながら、言葉を習い、紙に書いてもらいそれを見せたりなどの工夫をしつつ撮影を行っていました。

5. 現地での活動②

地震発生から二週間ほどたつと診療所の新規の患者数は落ち着いてきていました。それに伴って X 線の撮影数も減少してきていましたが、このころから骨折のフォローアップのための撮影が増えていきました。活動していた診療所でギプスをまいた患者はもちろん、カトマンズなどで手術をした患者が撮影に来ることも多くありました。

ネパールでは地震後重症患者の搬送に軍用ヘリなどを使っていましたが、本来の交通網は貧弱でメラムチ村からカトマンズに行くには3時間ほどかけてバスに乗るのが一般的です。けがをした人を連れてバスに乗ってカトマンズまで行くのは大変で、できれば診療所で見てほしいという患者やその家族が日本の医療チームがメラムチの診療所にいるという話を聞き診察に訪れるようになっていました。

またこの頃にはがれきの撤去や家の再建中のけがや骨折が増えていました。活動を始める前には地震から2週間もたてば X 線の撮影は減るだろうと予想していましたが、実際には急激に減ることはなく平均で14人ほどの撮影を行いました。

6. 現地での活動③

活動開始から数日たったころ、一人の女性が撮影に来ました。明らかに腫れた足を引きずり、家族に支えられて歩いていました。下腿の撮影を行うと腓骨、脛骨が両方骨折していました。通訳が話を聞くとこの女性は地震発生直後にも診療所を訪れていたのですが、その頃 X 線撮影は稼働していなかったため診断がつかず、この日再び診療所を訪れたということでした。どうやって来たのかと聞いたところ、今のように支えてもらいながら 3 時間かけて歩いてきたといいます。バスも通っていない地域では歩くしか他に方法がないというのがネパールの山岳地帯の現状でした。また自分が診察を受けるのに家族に迷惑をかけたくない、メラムチで無理ならばカトマンズには行けない、治療が受けられなくても仕方がないという人もいました。ERU チームがもっている医療資機材は限られており、最終的には本人の意思に任せるしかないのですが文化や環境の違いに戸惑うことも多かったです。

7. ネパール人スタッフに支えられて

今回の活動は約 1 か月半、しかも現地が混乱状態ではほぼ休みも取れないという状況でした。患者は休みなく訪れ、慣れない環境で働くのは困難でしたが、ERU チームの仲間や現地ネパール人スタッフに支えられ乗り越えることができました。

特にネパール人スタッフには今回の活動を行うことはできませんでした。日本人が現地で活動するためには先ほどもあったように通訳が必要不可欠です。またそこには単なる言葉の壁だけではなく文化の違いにも注意しなければいけません。カーストを廃止はしていますがその風習は根強く残っています。また食習慣など生活面でも大きな違いがあります。このような文化を無視して活動を行うことはできません。ネパール人スタッフは自分たちも被災者でありながら、けがをした人を助けたい、日本から救援にきた ERU チームを手伝いたいとあらゆる面でチームを支えてくれました。

彼らの助けやアドバイスによってよりよい ERU 活動にしていくことができました。彼らの多くは学生や看護師でしたがモチベーションが高く、その姿勢から自分自身の医療への向き合い方を学ぶことも多かったです。

8. 国際医療救援について

私の所属する名古屋第二赤十字病院は本社の定める国際医療救援拠点病院の一つです。毎年複数スタッフが国際活動の現場に行っています。そんな中で仕事をする中で、自分も国際活動にかかわりたいと思い、研修を受けました。しかし実際に国際救援の現場に行くのは今回が初めてでした。どこで活動をするのかも、現地がどんな状況化もわからないまま日本を出発し、手探りで活動をした 1 か月半でした。

国際医療救援というと過酷で難しいことをしているように思えますが、実際にかかわってみると普段の仕事が基本だと改めて感じました。また日常とは違った環境の中でチームの一員として過ごすため、協調性が求められる仕事でした。限られた人数で多くのことをしなければいけないので自分にできることはなんでも積極的にやるというような姿勢が必要です。

特に一班では休暇を取ることなかなかできず、環境も整っていないため大変な事も多かったです。しかし病院で働いていると気づくことの少ない X 線写真一枚の重要性を感じ、また写真一枚で患者から感謝をされるという仕事のやりがいを感じることができました。

過酷な状況下でともに過ごしたチームのメンバーや現地のスタッフと過ごした時間はとても貴重で忘れられないものになりました。

9. 最後に

日本赤十字社の中でも国際救援活動に登録されている放射線技師の数は限られています。医療が高度化していく中で国際救援のような現場でも医師は画像診断を必要と感じました。

この機会にぜひ国際救援活動にも関心をもっていただけたらと思います。

多忙のなか、人手不足にも関わらず快く送り出してくれ、現地での活動中もいろいろな形で応援していただいた名古屋第二赤十字病院放射線科の皆さんに感謝します。